

科目名 コミュニティビジネス論  
Title Community Business  
科目区分 地域づくり発展科目

教授 八木橋 慶一 (ヤギハシ ケイチ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
3	選択	2	後期

### 目的

コミュニティビジネスは、地域住民が市民感覚や生活者感覚とともに、企業経営的な感覚を持って住民主体で事業を行い、また地域の課題の解決と生活の質の向上をビジネスの手法を通じて実現することと云われます。本講義では、この地域に根差した「ビジネス」について、そのあり方、社会起業家や既存の組織（たとえば協同組合）との関係などについてみていきます。また、社会問題の解決にビジネスの手法を用いる際に、示唆に富む視点を提供してくれるソーシャル・マーケティングを学び、ビジネスプランを構想できるようになることを目的とします。

### 達成目標

- ①地域の課題をビジネスの視点で考え、解決策やビジネスプランを提案できるようになる。
- ②コミュニティビジネスと社会的企業やNPO、協同組合との関係性を理解する。

### スケジュール

第1回	イントロダクション	講義概要	講義の進め方	成績評価
第2回	コミュニティビジネスの定義	意義と多様性		
第3回	コミュニティビジネスの実際①	データから見えること		
第4回	コミュニティビジネスの実際②	事例から見えること		
第5回	コミュニティビジネスと社会起業家	どのような関係にあるのか		
第6回	コミュニティビジネスと協同組合	協同組合の新展開の可能性		
第7回	(ゲストスピーカー：コミュニティビジネス支援の専門家を予定)			
第8回	コミュニティビジネスの成功事例	「葉っぱビジネス」から考える		
第9回	コミュニティビジネスへの支援とそのあり方①	行政の場合		
第10回	コミュニティビジネスへの支援とそのあり方②	金融機関・中間支援組織の場合		
第11回	ソーシャル・マーケティング①	社会問題をビジネス手法で解決？		
第12回	ソーシャル・マーケティング②	どのように事業戦略を練るのか		
第13回	コミュニティビジネスの事業プラン	を実際に考えてみよう		
第14回	(ゲストスピーカー：コミュニティビジネスの実践家を予定)			
第15回	まとめ			

### 教科書・参考文献

教科書 特になし

参考書 木下斉『地方創生大全』東洋経済新報社2016  
風見正三・山口浩平編『コミュニティビジネス入門：地域市民の社会的事業』学芸出版社2009

### 授業外での学習

次回の授業範囲について、配布資料などを読んで予習してください。また、授業後は必ずノートや配付資料に目を通し、復習をしてください。

### 評価方法

期末試験60%、授業内の課題40%で評価します。

### 履修上の注意

授業中の私語、携帯電話は厳禁です。

科目名 財務会計論  
Title Financial Accounting  
科目区分 地域づくり発展科目

担当教員  
非常勤講師 寺澤 智広 (テラサワ トモヒロ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 3	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

## 目的

会計は「ビジネスの言語」といわれ、財務諸表（決算書）によって企業の経営状態が報告されます。財務諸表を読み、理解し、分析する力を身につけることで、企業経営を数字で理解し、判断することができるようになります。財務会計論は企業の財務諸表の作成と公表のルールについて学ぶ分野です。財務会計論を学ぶことで、企業が公表する財務諸表に掲載された各項目（勘定科目）と、その金額の意味が理解できるようになります。この授業ではまた、財務諸表から企業の実態を分析する経営分析の手法についても学習します。実際の企業の財務諸表や、会計についてのニュース記事を教材として利用します。知識のレベルとして「ビジネス会計検定試験2級」の内容を身につけるようにします。さらに企業会計だけでなく、他の会計（非営利組織の会計など）にも触れ、より広い財務会計の知識を身につけるきっかけを得ます。

## 達成目標

- ①財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）とは何か、どのような関係にあるのかを理解すること。
- ②財務諸表作成のルールの意義と内容を理解すること。
- ③財務諸表から経営の実態を知るための経営分析の指標について、意味を理解したうえで、計算できるようにする。

## スケジュール

- 第1回 財務会計の意義と制度（ガイダンス）
- 第2回 貸借対照表について
- 第3回 損益計算書について
- 第4回 貸借対照表と損益計算書の関係と企業会計制度
- 第5回 財務諸表分析①～成長性の分析～
- 第6回 財務諸表分析②～収益性の分析～
- 第7回 財務諸表分析③～安全性の分析～
- 第8回 キャッシュ・フロー計算書と国際会計基準（IFRS）
- 第9回 会社法と自己株式について
- 第10回 企業の内部留保問題
- 第11回 東京電力と廃炉会計
- 第12回 粉飾決算について①
- 第13回 粉飾決算について②～オリンパスの事例～
- 第14回 非営利組織の会計
- 第15回 非営利組織の財務諸表の経営分析

## 教科書・参考文献

- 教科書 大阪商工会議所〈編〉『ビジネス会計検定試験 公式テキスト2級(第4版)』、中央経済社。  
解説プリント、企業の財務諸表、新聞や雑誌の記事等を毎回、配布します。
- 参考書 大阪商工会議所〈編〉『ビジネス会計検定試験 公式過去問題集2級(第4版)』、中央経済社。  
小栗崇資、森田佳宏、石川祐二、北口りえ『スタートガイド 会計学』、中央経済社、2017年

## 授業外での学習

プリントの見直しを行い復習してください。検定試験を受験する場合、参考書に挙げた過去問題集にも取り組む必要があります。

## 評価方法

期末試験(50%)、小テスト(3回×10%)、受講状況(20%)

## 履修上の注意

電卓を持参してください。  
不明点・疑問点は授業中・後を問わず遠慮なく質問してください。

科目名 内発的発展論  
Title Endogenous Development  
科目区分 地域づくり発展科目

非常勤講師 倪 鏡 (ニイ ジン) 担当教員 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
3	選択	2	前期

## 目的

(一社)農山漁村文化協会の日中農業交流事業に携わった勤務実績と、(一社)JC総研(現JCA 日本協同組合連携機構)での研究経験を活かし、事例や現場の取組を紹介し、理論と実態の両面から講義を行う。  
本講義では内発的発展論の理論を理解するとともに、日本に導入された後の展開、とりわけ地域づくりにおける内発的発展論が活用される事例を把握する。また、最近地方創生をめぐって様々な議論がなされているなか、内発的発展論の新たな動きと諸外国の経験を踏まえ、その方向性についても一緒に考えていきたい。

## 達成目標

- ・ 内発的発展論の内容と各分野の研究によるアプローチを理解する
- ・ 理論と実態の両面から内発的発展論の展開を学習する。
- ・ 内発的発展論の新たな展開と近年における内発的地域づくりの動きを把握する

## スケジュール

- 第1回 インタロダクション 講義の課題と進め方
- 第2回 内発的発展論とは何か(1) 内発的発展論の提起
- 第3回 内発的発展論とは何か(2) 内発的発展論の展開
- 第4回 内発的発展論と外来型地域開発
- 第5回 内発的発展論とまちづくり・むらづくり(1) - 大分県大山町の事例を中心に
- 第6回 農山村における内発的発展論の展開(2) 北海道下川町の事例を中心に
- 第7回 内発的発展論の限界性とその克服の道
- 第8回 内発的発展論の新たな展開 - ネオ内発的発展論
- 第9回 内発的発展における都市農村交流の意義
- 第10回 地域サポート人材と内発的地域づくり(1)
- 第11回 地域サポート人材と内発的地域づくり(2)
- 第12回 内発的発展と農村政策 - 中山間直接支払制度を中心に
- 第13回 内発的発展における住民の内発性の醸成 - 島根県美郷町を事例に
- 第14回 内発的発展論における諸外国の実態 - 英国の事例を中心に
- 第15回 講義のまとめと意見交換

## 教科書・参考文献

教科書 特になし。講義中に資料を配布する。

参考書 ・ 守友祐一『内発的発展の道』農文協、1991年 ・ 小田切徳美『農山村再生に挑む』、岩波書店、2013年など

## 授業外での学習

講義内容を丁寧に復習すること。

## 評価方法

期末試験を主とするが、受講生の出席状況によって実施するミニテストや中間レポート(いずれも20%とする)も評価対象となる。なお、成績評価には、総授業時間数のうち、2/3以上を出席することが求められる。

## 履修上の注意

私語、遅刻など、講義の妨げとなる行為は成績評価の減点となる。

科目名 協同組合論  
Title Cooperative Society  
科目区分 地域づくり発展科目

担当教員  
非常勤講師 倪 鏡 (ニイ ジン)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
3	選択	2	後期

## 目的

(一社)農山漁村文化協会の日中農業交流事業に携わった勤務実績と、(一社)JC総研(現JCA 日本協同組合連携機構)での研究経験を活かし、協同組合に関する最新動向を紹介しつつ、そのあり方について講義を行う。「協同」することは古くからあるが、今なぜ協同組合なのか、本講義は「現代社会と協同組合」という観点から協同組合の現状と課題を紹介するとともに、グローバル化が進み、地域や生活の格差が広がっている今日社会において、協同組合の役割とその意義をどう捉えるべきかを、一緒に考えていきたい。

## 達成目標

- (1) 協同組合について、その基本原理、歴史的発展と今日の機能、さらに地域社会における役割を理解すること。
- (2) 協同組合とどのように接していくか、主体的に考える力を身に付けること。

## スケジュール

- 第1回 インタロダクション 講義の課題と進め方
- 第2回 海外における協同組合の源流と現状
- 第3回 日本における協同組合のあゆみ(1)
- 第4回 日本における協同組合のあゆみ(2)
- 第5回 協同組合の特徴と仕組み(1)
- 第6回 協同組合の特徴と仕組み(2)
- 第7回 農業協同組合(1)―戦後総合農協の展開、組織と事業の特徴
- 第8回 農業協同組合(2)―課題と農協改革
- 第9回 生活協同組合
- 第10回 大学生協
- 第11回 森林組合
- 第12回 様々な協同組合―漁業協同組合、中小協同組合、信用組合など
- 第13回 協同組合間連携
- 第14回 各国の農業協同組合の実態
- 第15回 講義のまとめと意見交換

## 教科書・参考文献

教科書 特になし。講義中に資料を配布する。

参考書 『新協同組合とは』河野 直哉 財団法人 協同組合経営研究所 2007年  
『規制改革時代のJA戦略』増田 佳昭 家の光協会 2006年。その他、講義中に必要に応じて指示する。

## 授業外での学習

講義内容を丁寧に復習すること。

## 評価方法

試験を主とするが、受講生の出席状況によってミニテストを行い評価することも想定される。なお、成績評価には、総授業時間数のうち、2/3以上を出席することが求められる。

## 履修上の注意

私語、遅刻など、講義の妨げとなる行為は成績評価の減点となる。

科目名 事業再生論  
Title Turnaround Management  
科目区分 地域づくり発展科目

担当教員  
非常勤講師 高橋 隆明 ( タカハシ タカアキ )

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
3	選択	2	前期

## 目的

さまざまな理由で経営が悪化し、事業継続が困難になることがあります。この場合、事業譲渡や会社分割、M&Aという形で事業を再編し、事業の再生を進めることも少なくありません。法的整理あるいは私的整理により事業再生を進めていく過程で債権放棄や債権譲渡が行われることもあり、債務者のみならず債権者の立場にも配慮することが必要になります。事業再生の基本的事項を理解し、法的な知識を得ることで、今後、具体的に必要とされた際に応用するための基礎力を身に付けることを目的とします。

## 達成目標

事業再生の方法論に留まらず、民法、会社法、会社更生法、民事再生法、税法等々の法的知識に加え、会計学、経済学の視点からも事業再生のあり方を理解することで理論と実務の融合を目指します。事業再生に関連し、社会で実際に起きている事象について、自分の言葉で説明できるようになることを目標にします。

## スケジュール

- 第1回 授業の概要把握
- 第2回 不良債権と事業再生（不良債権の発生と事業再生の必要性）
- 第3回 事業再生に関わる法制度（民法、会社法、会社更生法、民事再生法、破産法、税法等々）
- 第4回 法的整理と私的整理（裁判所に頼るのか否か、風評被害、詐害行為）
- 第5回 再生と清算（事業継続の可能性、モラルハザード）
- 第6回 金融検査と債務者区分（金融機関の立場、金融検査）
- 第7回 事業再生に関わる損益計算書（破綻企業の経営成績、収益・費用・利益）
- 第8回 事業再生に関わる貸借対照表（破綻企業の財政状態、資産・負債）
- 第9回 債権放棄・債権譲渡と債務免除（サービサー、債権者の貸倒損失、債務者の債務免除益）
- 第10回 事業再生に関わる経営分析、キャッシュフロー（粉飾決算の実際、見破り方）
- 第11回 事業譲渡、会社分割、M&A、第二会社方式（事業再生に関わる組織再編）
- 第12回 事業再生の実例（実際の事業再生、事業再生計画、シミュレーション）
- 第13回 事業再生に関わる法と経済学（情報の非対称性、債権者と債務者の行動）
- 第14回 事業再生に関わる法と交渉学（配分型交渉と統合型交渉）
- 第15回 講義全体のまとめ

## 教科書・参考文献

- 教科書 これまでに出版してきた自書の中から必要箇所を抜粋したレジュメを配布します。必要に応じてプリントを追加配布しますので、教科書を購入する必要はありません。
- 参考書 高橋隆明（2017）『事業再生読本』、ファーストプレス社他。必要に応じて授業中に紹介します。必要な資料は授業中に配布しますので、参考書を購入する必要はありません。

## 授業外での学習

授業で配布するレジュメは、事業再生に関する基本的な資料となります。レジュメを参考に、新聞・テレビ等を通じ、実際に社会で起きている事業再生に関わるニュースについて興味を持ってください。特段の予習は必要ありません。

## 評価方法

定期試験（50％）とレポート（50％）を中心に評価します。授業内容を反映し、自分の言葉で表現している答案を高く評価します。

## 履修上の注意

20年以上に渡って事業再生を専門に扱ってきた経験を基に、実務家教員【税理士・不動産鑑定士、博士（経済学）・博士（経営学）】として理論と実務の融合を目指しています。授業で学んでいる知識を、実社会でどのように生かすことができるかを念頭に置きながら履修してください。

科目名 環境政策論  
Title Environmental Policies  
科目区分 地域づくり発展科目

担当教員  
准教授 森田 稔 (モリタ ミノル)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
3	選択	2	後期

## 目的

本講義では、日本を含む世界各国・地域で実施されている、あるいは検討されている「環境政策」について、経済学の観点から分類・解説し、それぞれの政策の利点と問題点について講義します。さらに本講義では、「環境政策の評価方法」についても、解説・実習します。環境政策は、環境改善という「便益」をもたらす一方、政策実施による「費用」も発生します。よって、政府が検討あるいは実施している政策について、私たちは便益と費用を比べ、望ましい政策かを評価する必要があります。本講義では、こうした評価方法について解説するとともに、いくつかの環境政策について行われた実例も紹介し、環境政策に関する知識と評価手法を習得することを目的とします。

## 達成目標

環境政策は、国レベルから地方自治体レベルまで、幅広く実施されています。本講義では、受講生自身が様々な環境政策について、「対象としている環境問題の性質に適した政策であるのか?」、「費用便益分析の観点から見て適切な政策であるのか?」、を考える手段と能力を習得することを到達目標とします。さらに、将来、政策立案者(公務員など)を目指す学生が、適切な政策の立案に必要な考え方を習得することが期待されます。

## スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 環境経済学の復習(1): 「市場の役割」と「政府の役割」
- 第3回 環境経済学の復習(2): 「政策を実施する」ことの経済学的根拠
- 第4回 環境経済学の復習(3): 「環境政策」の基礎理論
- 第5回 日本における環境政策の変遷と最近の環境政策の動向
- 第6回 廃棄物・リサイクル問題と環境政策
- 第7回 企業に依拠した環境問題と環境政策
- 第8回 家庭に依拠した環境問題と環境政策
- 第9回 国際貿易に関連した環境問題と環境政策
- 第10回 政策評価の必要性と方法
- 第11回 環境価値の評価手法(1): 環境の価値と環境評価の手法
- 第12回 環境価値の評価手法(2): 「顕示選好法」による環境評価
- 第13回 環境価値の評価手法(3): 「表明選好法」による環境評価
- 第14回 環境価値の評価手法(4): 事例紹介と実習(顕示選好法)
- 第15回 環境価値の評価手法(5): 事例紹介と実習(表明選好法)

## 教科書・参考文献

- 教科書 栗山浩一・馬奈木俊介 著(2016)『環境経済学をつかむ(第3版)』、有斐閣。(ただし、本講義ではレジュメを配布しますので、必要に応じて購入してください。)
- 参考書 栗山浩一・柘植隆宏・庄子康 著(2013)『初心者のための環境評価入門』、勁草書房。

## 授業外での学習

毎回、講義前までに1)教科書の指定箇所と2)講義資料によく目を通し予習した上で、講義に参加すること。また、必要に応じて課題を出す場合があります。

## 評価方法

課題;40%、期末試験;60%

## 履修上の注意

前期の「環境経済学」を、必ず、履修していることが求められます。シラバスでは難しい内容に思えるかもしれませんが、数学などは使わず、パワーポイントで、画像と図を多用して講義を進めていきます。また、環境政策評価の実習ではExcelを用いますが、受講生に合わせて、ステップ・バイ・ステップで、進めていきますので、事前の知識は求めません。

科目名 環境経営論  
Title Environmental Management  
科目区分 地域づくり発展科目

担当教員  
非常勤講師 九里 徳泰 (クノリ ノリヤス)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
3	選択	2	前期

## 目的

企業活動による環境影響は公害から地球環境問題へと広がり、昨今CSR（企業の社会的責任活動）及び企業のグローバルな持続可能な開発への関与に関心が集まっています。本講義では、各回のテーマに沿って、実例を多く挙げながら、環境と企業活動の関係に関し歴史、理論を通し、環境問題に対する企業の取り組みについて学ぶとともに、トリプルボトムラインとよばれる環境・社会・経済の三側面から持続可能な社会を構成するために必要な企業と環境のあり方を学びます。また、ビジネスを通じて環境問題解決を目指す「エコのためのビジネス」の最新動向を学びます。

## 達成目標

- ① 環境と企業の包括的な関係を理解できること。
- ② 環境マネジメントの手法（管理、公表、評価）を理解できること。
- ③ 企業の社会的責任と企業の戦略的環境行動を理解できること。
- ④ 企業の実践する環境ビジネスの各種展開方法を理解できること。

## スケジュール

- 第1回 地球環境問題I - 気候変動問題（アクティブラーニング）
- 第2回 地球環境問題II - 9つの環境問題（アクティブラーニング）
- 第3回 企業における環境経営の実例I - 米国パタゴニア社の例
- 第4回 企業における環境経営の実例II - 富士ゼロックスの例
- 第5回 ISO14001と環境経営、EMS（環境マネジメントシステム）
- 第6回 CSR（企業の社会的責任）I トリプルボトムライン経営
- 第7回 CSR（企業の社会的責任）II ステークホルダーとの協働
- 第8回 CSR（企業の社会的責任）III アカウンタビリティ（説明責任）
- 第9回 環境に関する企業評価-ESG評価と環境格付
- 第10回 エコビジネスI 循環型社会、低炭素社会とビジネス（廃プラスチック、再生可能エネルギー）
- 第11回 エコビジネスII シェアリングエコノミー、サーキュラーエコノミー
- 第12回 エコビジネスIII 環境未来都市における企業活動（富山市、北九州市）
- 第13回 企業での環境教育と協働（企業における環境教育、環境NPO、市民の参画：トヨタ車体の例）
- 第14回 ドイツ環境ビジネスフィールドワーク：環境都市：フライブルグ（アクティブラーニング）
- 第15回 試験とまとめ：最終レポート作成と講義の総括（社会と企業の環境経営の関係性をこれまでの教科書の範囲を概観する）

## 教科書・参考文献

- 教科書 後藤尚弘・九里徳泰『基礎から学ぶ環境学』朝倉書店  
野村佐智代他『よくわかる環境経営』ミネルヴァ書房
- 参考書 左巻健男・九里徳泰・平山明彦『地球環境の教科書10講』東京書籍  
丹下博文編『地球環境辞典第4版』中央経済社

## 授業外での学習

教科書で講義の予習を必ずしたうえで授業に参加すること。毎回、学生からの質問を3点受け付け教員が返答しますので、指定されたEメールアドレスに質問を送付してください。また、最終レポートの作成には1日の時間が必要なため、必ずレポート作成時間をとること。

## 評価方法

最終レポートと平常点（小レポート）を総合的に勘案して評価を行います。  
期末試験（70%）平常点（30%）。平常点は毎回のミニツツレポートを評価する。

## 履修上の注意

「楽しく学ぶ」ということが私のモットーです。楽しく学ぶためには、「授業内容を実感、体験」することです。授業での学びを新聞やWEBニュースと接続しながら勉強すると構造的に社会を見ることが出来ます。

科目名 環境社会学  
Title Environmental Sociology  
科目区分 地域づくり発展科目

担当教員  
准教授 宇田 和子 (ウダ カズコ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次  
3

単位区分  
選択

単位数  
2

開講時期  
前期

## 目的

本講義の目的は、国内外の環境問題の事例を取り上げ、  
(1) これらの問題を生じさせる社会的メカニズムはなにか、  
(2) これらの問題を解決するためになにが必要か、という二つの問いに答えることである。  
本講義の焦点は、環境を守ることよりも、むしろ環境が破壊された後に社会になにができるのかを考えることにある。たとえば汚染の浄化、被害の補償、地域社会の関係回復、同じ事件をくり返さないための制度形成などである。

## 達成目標

- (1) 環境社会学の視点から具体的な環境問題の発生要因と解決可能性について考察できる。
- (2) 社会科学が環境問題を研究することの必然性および貢献可能性について自分なりの意見を持てる。

## スケジュール

第1回	ガイダンス	履修上の注意、採点方法、本講義の主題について
第2回	熊本水俣病 1	なぜ被害は発生・拡大したか
第3回	熊本水俣病 2	なぜ「公害の原点」と呼ばれるのか
第4回	カネミ油症 1	有害食品はなぜ販売されたか
第5回	カネミ油症 2	被害の実態はどのようなものか
第6回	カネミ油症 3	被害補償はどのように行われたか
第7回	カネミ油症 4	「食品公害」?
第8回	カネミ油症 5	なにをすることが生活回復につながるのか
第9回	化学物質過敏症 1	なにが過敏性を獲得させるのか
第10回	化学物質過敏症 2	子どもの患者が抱える困難さとはなにか
第11回	化学物質過敏症 3	「にせものの病気」?
第12回	化学物質過敏症 4	世界で化学物質はどう管理されているか
第13回	化学物質過敏症 5	この問題をどう説明できるのか
第14回	越境汚染問題 1	越境汚染はなぜ起きるのか
第15回	越境汚染問題 2	どこに視点を向けることが解決にとって重要か
	全体のまとめ	環境問題とはなにか

## 教科書・参考文献

教科書 特に指定しない

参考書 船橋晴俊編, 2011, 『環境社会学』弘文堂.  
足立重和・金菱清編, 2019, 『環境社会学の考え方: 暮らしをみつめる12の視点』ミネルヴァ書房.

## 授業外での学習

参考文献、および講義内で紹介する文献を積極的に読むことを推奨する。

## 評価方法

期末試験100%。ただし試験の点数だけでは不合格となる場合、平常点(講義内の分析レポート)を15%まで加味する。この場合は最高で「可」の評価しかつかない。

## 履修上の注意

私語をはじめ、他の受講者の学習を阻害し、意欲を減退させる行為を禁ずる。



科目名 環境教育論  
Title Environmental Education  
科目区分 地域づくり発展科目

担当教員  
非常勤講師 片亀 光 (カタカメ ヒカル)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
3	選択	2	前期

## 目的

地球的課題である環境問題を解決するために、環境教育は極めて重要である。教育者のみならず、行政官、技術者、ジャーナリストなどの職業人を目指す学生にとっても重要な環境リテラシーを体得し、環境問題と人間活動との関わりについて理解し、考え、行動し、周囲に働きかけていくための枠組みを提示する。特に、持続可能な開発のための2030アジェンダ (SDGs) との関連を意識し、具体的なアクションに踏み出すことを目指す。

## 達成目標

環境問題とSDGsについて、知識だけでなく自分事として受け止める感性を呼び覚ますこと。環境問題の本質を的確に表現し、コミュニケーションする能力を持つこと。受講前後でのライフスタイルや価値観の変化を踏まえ、環境教育に関する独自の企画案を作成すること。

## スケジュール

- 第1回 環境教育の歴史と課題
- 第2回 環境教育の内容・方法・カリキュラム
- 第3回 グローバルな文脈における公害教育の展開
- 第4回 グローバルな文脈における自然保護教育の展開
- 第5回 MDGsからSDGsへの変革とその実施に向けた課題
- 第6回 持続可能性についての考え方
- 第7回 開発問題とESD
- 第8回 持続可能な開発と国際協力
- 第9回 地球環境問題の特性と所在
- 第10回 地球資源制約と生物多様性保全
- 第11回 持続可能な生産と消費、ライフスタイルの選択
- 第12回 気候変動とエネルギーの選択
- 第13回 生物多様性保全と環境教育
- 第14回 持続可能な都市・コミュニティへの再生
- 第15回 SDGsとパートナーシップ

## 教科書・参考文献

- 教科書 佐藤真久・田代直幸・蟹江憲史編著 『SDGsと環境教育』 学文社 3,000円+税  
教科書に沿って進めるので必ず用意すること
- 参考書 安井至著 『市民のための環境学入門』 丸善ライブラリー 740円+税  
日本環境教育学会編 『環境教育』 教育出版 2,300円+税

## 授業外での学習

講義テーマに関連する報道や関連情報について報告を求められることがあるので、指示があった場合には下調べをしておくことが望ましい。

## 評価方法

定期試験70%、受講状況を30%の割合で評価する。試験はテキスト・資料持ち込み不可。

## 履修上の注意

参加型の講義とするので、主体的に参加することが望ましい。

科目名 家庭福祉論  
Title Family Social Work  
科目区分 地域づくり発展科目

教授 原 史子 (ハラ アヤコ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次  
3

単位区分  
選択

単位数  
2

開講時期  
後期

## 目的

本講義では、日本の家族政策について家族社会学およびジェンダーの視点からその課題を分析する。戦後の家族変容と家族の現状を把握し、こんにち表出している家族の生活課題の背景を多面的に理解し支援の方策を検討することを目的とする。

## 達成目標

- ・ 社会福祉における「家族」「家庭」の位置づけについて、戦後日本の家族政策を踏まえ批判的に検討できる。
- ・ 育児不安や子どもの貧困等、こんにちの社会問題・家族が抱える生活課題について多面的に理解できる。
- ・ 自分自身の家族観を相対化できる。

## スケジュール

- 第1回 インTRODクション(講義概要、授業の進め方、評価方法等)
- 第2回 子育て①子育ての現状
- 第3回 子育て②働く保護者の実情
- 第4回 子育て③子育て施策の歴史的展開
- 第5回 子育て④北欧の家族支援
- 第6回 子育て⑤乳幼児期の子ども家庭支援
- 第7回 ひとり親家庭①貧困の女性化
- 第8回 ひとり親家庭②ひとり親世帯の現状と福祉施策の現状
- 第9回 子どもの貧困①貧困の女性化と子どもの貧困
- 第10回 子どもの貧困②子どもの貧困の現状
- 第11回 子どもの貧困③貧困がもたらす子どもへの影響
- 第12回 家族政策の展望①～エスピン・アンデルセンの議論から～
- 第13回 家族政策の展望②～マーサ・A・ファイマンの議論から～
- 第14回 先進国の家族政策と日本の家族政策
- 第15回 まとめ

## 教科書・参考文献

教科書 特不使用。

参考書 講義中に具体的なテーマに即して適宜紹介する。

## 授業外での学習

授業中に指示する課題を確実に行うこと。

## 評価方法

期末試験(60%)、小レポート、コメントシートによる受講状況(40%)の割合で総合的に評価する。

## 履修上の注意

- ・ 児童福祉論を履修済みであることが望ましい。
- ・ 講義中の私語・携帯電話の使用、及び遅刻・途中退室等は厳禁。

科目名 司法福祉論  
Title Judicial Social Services  
科目区分 地域づくり発展科目

担当教員  
非常勤講師 下岸 幸子 ( シモギシ ユキコ )

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次  
3

単位区分  
選択

単位数  
2

開講時期  
後期

## 目的

現代の少年非行を中心に司法福祉学を学ぶ。少年の育つ家庭環境・地域環境・社会環境に目を向け、非行の原因や大人社会の中で育つ少年の生活を捉える。少年期、模索と失敗の経験を繰り返し、大人へと成長していく過程で起きる非行の背後に目を向ける。司法の中で少年の福祉をどう理解していくか一緒に考えたい。講師自身の家庭裁判所調停委員の経験や児童福祉領域での経験も講義の中で触れていきたい。

## 達成目標

司法福祉とは、どのような学問か初歩から学び、身近な学問である事を実感しつつ、誰もが暮らす地域社会での幸せな生活環境とは私たちににとってどうあるべきなのかを学ぶ。

## スケジュール

- 第1回 オリエンテーション ( 授業の進め方・評価方法としてはテスト ( 講義で学んだことを基に記述式 ) と講義内でのレポートなど ) 参考文献の紹介など
- 第2回 司法福祉をどう捉えるか。司法福祉学を導き出した人物と考え
- 第3回 司法福祉の発展とその領域。歴史から見る少年犯罪の取り組み
- 第4回 留岡幸助の目指した非行少年育成そのI ( DVDを見ながら )
- 第5回 留岡幸助の目指した非行少年育成そのII ( DVDを見ながら )
- 第6回 少年犯罪とは、反社会的行為を犯した少年たちへの処遇 ( プリント配布 )
- 第7回 児童福祉法に触れながら現代社会の中で育つ少年たち
- 第8回 児童相談所の機能と現状
- 第9回 児童自立支援施設の機能と現状
- 第10回 家庭裁判所の機能
- 第11回 保護観察所・少年鑑別所・少年院の機能
- 第12回 民間組織を活用した取り組みと今後の課題 ( 保護司・BBS・協力雇用主など )
- 第13回 事例を通して少年犯罪の背景を考える
- 第14回 少年事件の社会的背景を捉えた時代の推移
- 第15回 講義と事例を参考にしながら司法福祉学の今後の課題と期待等を個々に探っていく

## 教科書・参考文献

教科書 初回講義の際に指示する。

参考書 初回講義の際に指示する。

## 授業外での学習

レポート課題が出ます。

## 評価方法

試験 ( 70% )、レポート ( 20% )、平常点・講義への参加姿勢 ( 10% )

## 履修上の注意

私語厳禁。携帯電話、パソコン等の使用禁止。

科目名 地域福祉論  
Title Theory on Community Welfare  
科目区分 地域づくり発展科目

担当教員 細井 雅生.. (ホソイ マサオ..)  
教授

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
3	選択	2	前期

## 目的

2000年は介護保険制度の開始、措置制度から選択・契約への転換を打ち出した社会福祉基礎構造改革とともに社会福祉事業法を社会福祉法と改称し、「地域における福祉」が初めて法に登場した年である。とはいえ「地域」が福祉の対象となったわけではない。「福祉の担い手としての地域」という日本型福祉の考えを明示したにすぎない。「地域福祉」という概念は、そもそも近代国家の責務としての福祉と対をなし、共同体（態）のなからで自発的に育まれ、組織化され、日常生活を営む上で当たり前の意識・行動の基盤へと成長することを企図する様々なソーシャル・アクションと考えられる。本講義では、「地域」概念の検討から、イギリス、アメリカ、日本を中心に「地域福祉」の歴史をおさえ、自治体の地域包括ケアや子育て拠点等の取り組みを検討しながら、福祉ボランティア活動、福祉領域のNPO活動等のソーシャル・アクションにも注目して議論を展開する。

## 達成目標

- 1) 地域福祉という概念を的確に理解すること。
- 2) 地域福祉計画の可能性と課題を適切に理解し、自分なりの意見を明確化すること。
- 3) 自分にとっての地域という概念そのものを点検する視点を獲得すること。

## スケジュール

第1回	イントロダクション	講義概要、スケジュール、評価方法等
第2回	地域の概念	地域をどうとらえるか、リジョン、エリア、コミュニティ
第3回	地域福祉の歴史(1)	イギリス、アメリカにおけるセトルメント運動の理解と現代日本の現状との関係
第4回	地域福祉の歴史(2)	日本におけるセトルメント運動の特殊性と今日の福祉NPO
第5回	地域福祉の歴史(3)	隣保館、部落解放運動のもたらしたものの部落差別解消推進法の意味
第6回	社会福祉協議会の活動と地域福祉(1)	社会福祉協議会の組織化
第7回	社会福祉協議会の活動と地域福祉(2)	全国社会福祉協議会、都道府県社会福祉協議会の機能
第8回	社会福祉協議会の活動と地域福祉(3)	全市町村社会福祉協議会と協議体・社協のファシリテート機能
第9回	民生・児童委員の機能と課題	民生・児童委員、子育て支援、高齢者支援、社協のファシリテート機能
第10回	地域包括支援センターの機能と地域包括ケアシステム	独居高齢者の見守り、高齢者虐待対応等
第11回	地域福祉活動の可能性と課題(1)	地域包括ケアシステムにおける生活支援・協議体活動
第12回	地域福祉活動の可能性と課題(2)	地域子育て支援拠点の可能性と課題
第13回	地域福祉活動の可能性と課題(3)	ボランティア・コーディネイト・ファシリテート等専門性を軸とした地域資源
第14回	資源	専門職を軸とした地域資源の活用を考える
第15回	総括	

## 教科書・参考文献

- 教科書 社会福祉士養成講座、介護福祉士養成講座、保育士養成講座等の資格取得用テキストの地域福祉論をどれかひとつ自由に選択。
- 参考書 社会福祉小六法 その他は初回講義で提示

## 授業外での学習

授業中に指示するキーワードの意味調べを徹底すること。復習の場合も、次回授業の内容に関わる場合もある。

## 評価方法

原則定期試験による。(100%)  
内容が良ければ小テストの結果を加味。

## 履修上の注意

各自ホームページ等で出身自治体の地域子育て拠点、協議体、社会福祉協議会等について情報収集をして、内容を自分の問題としてより具体的に理解できるようにする。日頃から福祉に関するニュース、新聞報道等は把握しておくこと。イギリスの宗教革命の歴史あるいは同和対策等についてもある程度の事前学習が望まれる。

科目名 公的扶助論  
Title Public Assistance  
科目区分 地域づくり発展科目

講師 佐藤 和宏 ( サトウ カズヒロ )

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次  
3

単位区分  
選択

単位数  
2

開講時期  
前期

## 目的

- ・生活困窮時の生活保障の仕組みである公的扶助制度の概要・現状・課題を理解する。
- ・公的扶助制度の成立の経緯および基盤となる考え方への理解を深める。
- ・諸外国と対比しつつ、日本の公的扶助制度 / 貧困の実態を把握する。

## 達成目標

下記の課題を、自分なりに理解した上で、適切に文章として表現できること

- ①日本および諸外国における公的扶助制度の歴史・現状・展望を把握する。
- ②日本における貧困の実態と展望について自分なりに考えることができるようになる。

## スケジュール

- 第1回 ガイダンス / 公的扶助とは何か
- 第2回 公的扶助の概要
- 第3回 公的扶助の歴史(イギリス)
- 第4回 戦後日本の社会保障の歴史
- 第5回 現在の日本の社会保障体系
- 第6回 貧困の国際比較
- 第7回 公的扶助の国際比較
- 第8回 現代生活保護①生活保護の適正化
- 第9回 現代生活保護②自立支援プログラム
- 第10回 現代生活保護③生活困窮者自立支援制度
- 第11回 論点①貧困についての多様な理解
- 第12回 論点②不正受給はなぜ誤解されるのか
- 第13回 論点③生活保護引き下げ違憲訴訟
- 第14回 論点④住宅問題—無料低額宿泊所とハウジングファースト
- 第15回 まとめ：レポート振り返り / 社会保障体系

## 教科書・参考文献

教科書 岩永理恵・卯月由佳・木下武徳，2018，『生活保護と貧困対策—その可能性と未来を拓く』有斐閣

参考書 社会福祉士養成講座編集委員会編，2019，『低所得者に対する支援と生活保護制度』[第5版]中央法規出版

## 授業外での学習

授業前後には、生活保護や貧困問題に関連する項目について、教科書・参考書を中心に勉強をすること。授業後は必ずノートや配付資料に目を通し、学習内容の定着を図ること。日常的に新聞記事やニュース番組、ドキュメンタリー映像、映画やマンガなどに接する機会があれば、生活保護や貧困問題との関わりについて考えること。

## 評価方法

期末レポート(40%)、受講状況・平常点(60%)

## 履修上の注意

- ①本授業は特定の資格取得との関わりから設定されているものではないため、基本的に資格取得への対応は行わない。
- ②授業については、基本的にプリント配布とパワーポイントでの講義を中心とする。
- ③平常点は、毎回の出欠確認 / 授業感想用紙(質問やコメントも含む)の提出およびその内容で判断する。

科目名 福祉援助技術論  
Title Social Work  
科目区分 地域づくり発展科目

担当教員  
非常勤講師 樋田 幸恵 (トヨダ ユキエ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 3	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

## 目的

私達の生活に欠かすことのできない社会保障、社会福祉の諸制度は、「いかに活用するか」「どのように活用してもらうか」が、制度内容の充実とともに不可欠な視点である。また「制度としての社会福祉」を実践していく際に、他者である利用者との関係は、重要な鍵になる。他者との関係を構築する際に使われる技術に社会福祉援助技術がある。

本科目では、様々な場面を用いて、対人援助に関する知識及び技術についての理解を深める。加えて、社会福祉援助技術は、「他者の生活」に関与する技術であり、自分自身の価値観等が問われる場面もある。従って、講義を通じ、自分自身の価値観と姿勢をしっかりと見つめ、知識や技術を得るだけでなく、多様な人生を歩んでいる他者に対する理解および考察を深めてほしい。

## 達成目標

まず、社会福祉の視点から、社会福祉援助技術の「技術」の必要性を理解する。次に、多様な人生を歩んでいる他者を理解し、適切に関わる必要があることを理解する。最後に、適切に関わるための技法のなごれ、そのヒントを得ることを目標とする。

## スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 社会福祉における援助技術とは何か
- 第3回 社会福祉援助技術の基本理念 -バイステックの原則について-
- 第4回 価値観について 「自分の価値観を知る」
- 第5回 価値観について 「価値観が言動に与える影響を理解する」
- 第6回 価値観について 「自分の価値観と他者の価値観の違いを知る」
- 第7回 コミュニケーションの基礎技術 「会話とは何か」
- 第8回 コミュニケーションの基礎技術 「傾聴とは何か、を知る」
- 第9回 コミュニケーションの基礎技術 「傾聴の練習」
- 第10回 コミュニケーションの基礎技術 「会話を深める技法」
- 第11回 チームを作るー役割を自覚するー
- 第12回 チームを作るーより良く、目的を達成するー
- 第13回 伝える技術-プレゼンテーションの基本-
- 第14回 伝える技術-プレゼンテーションの技術-
- 第15回 総括

## 教科書・参考文献

教科書 プリントを配布する予定である。

参考書 F・P・バイステック著 尾崎新ほか訳 (2006) 「ケースワークの原則 援助関係を形成する技法」  
誠信書房

## 授業外での学習

講義で学んだ技術を、日常生活の中で取り入れ、繰り返し練習することが望ましい。

## 評価方法

評価の配分は、講義への参加状況 (講義後のコメントシートへの記入) 20%、課題40%、試験40%とします。

## 履修上の注意

基本的に、学生同士でのワークショップや議論、発表等を実施する。講義形式のみの授業形態ではないことを十分に勘案して履修すること。また、遅刻は他履修生の迷惑になるので、一切認めない。途中退席も、他履修生の迷惑になるので慎むこと。

科目名 障害者福祉論  
Title Disability Social Work or Disabilities Social Work  
科目区分 地域づくり発展科目

担当教員 担当教員との連絡方法  
教授 熊澤 利和 (クマザワ トシカズ)

E-Mail

配当年次 3 単位区分 単位数 開講時期  
3 選択 2 後期

## 目的

障害者福祉領域からみるソーシャルワーク論を基にしながら、地域政策学における障害者福祉について学習をします。重要なキーワードとして、「自己決定」「ノーマライゼーション」「合理的配慮」「生活支援」「権利」「雇用」「社会的包摂」等があげられ、それに関連した内容を学習します。

## 達成目標

- ① 障害の概念について理解することができる。
- ② 障害者福祉を支える思想について理解することができる。
- ③ 我が国の障害者福祉の変遷を踏まえ現在の障害者福祉施策の現状を理解することができる。
- ④ 障害者福祉における人権擁護の課題が考えられる。

## スケジュール

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 なぜ、障害者の問題が身近な問題としてとらえにくいのか？
- 第3回 障害の否定から共生へ：優生思想とノーマライゼーション
- 第4回 「障害」について考える：国際障害分類から国際生活機能分類へ 疾病モデルから相互作用モデルへ、エコ・システム理論
- 第5回 利用者の主体性を中心に考える：ストレングスモデル
- 第6回 障害による差別の禁止と「自己決定」の原則
- 第7回 障害のあるアメリカ人法（Americans with Disability Act:ADA）から「合理的配慮」について考える
- 第8回 障害者に対する政策展開と制度改革：障害者基本法・障害者総合支援法から考える
- 第9回 障害者に対する政策展開と制度改革：バリアフリー法改正（2018年）からみるインクルーシブ社会形成について
- 第10回 障害者に対する政策展開と制度改革：障害者雇用と就労支援 2018年の「障害者雇用の水増し」問題から
- 第11回 グループ討議：“なぜ、障害者差別はなくなるのか？”（テーマは受講生と相談の上、決める）
- 第12回 グループ討議：“インクルーシブ社会を目指して”（11回目の続き）
- 第13回 障害者に対する政策課題：障害者の権利に関する条約からみるわが国の成年後見制度の課題を中心に
- 第14回 障害をもつ家族の生活のしつらさを考える：家族会 親の会 きょうだいしまいの会から
- 第15回 まとめ：社会的排除から社会的包摂へ。我が国は、どこまで到達できたか？

## 教科書・参考文献

- 教科書 小澤温『よくわかる障害者福祉』第7版ミネルヴァ書房2020（4月頃に新版が発刊される場合がある）
- 参考書 社会福祉小六法 ミネルヴァ書房  
森下直貴/佐野誠『「生きるに値しない命」とは誰のことか—ナチス安楽死思想の原典からの考察

## 授業外での学習

講義時に、文献、事前学習の内容を提示するので、予習をして講義に望むこと。また事後学習に対しては、毎回の講義時にテーマを提示するので、それについて学習をすること。

## 評価方法

①中間レポート(35点) ②期末レポート(50点) ③リアクションペーパー(15点)を課す。中間レポートのみ遅れて提出を認めるが、減点をする。成績は、リアクションペーパーの内容、レポート、試験を総合的に判断して評価する。※2/3以上の出席がない場合、大学に規定に基づきE評価とする。

## 履修上の注意

初回到講義の進め方、評価など履修上重要なことを説明します。日頃から障害者福祉関連のニュースに目を通すことを勧めます。講義の妨げとなる行為をした場合、不合格とする場合があります。

科目名 ジャーナリズム論  
Title Journalism  
科目区分 地域づくり発展科目

担当教員  
非常勤講師 上毛新聞社 ( ジョウモウシンブンシヤ )

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
3	選択	2	前期

## 目的

上毛新聞記者としての取材経験を踏まえ、新聞の取材や編集の現場がどうなっているかを実際の紙面を例に示しながら講義を展開していく予定。古くからあるメディアとして、報道機関として、そして言論機関としての新聞の果たす役割や直面する課題を学ぶ。実名・匿名問題や裁判員裁判と事件報道など、今日的な話題に触れながらジャーナリズムのあり方についても考えてもらう。」

## 達成目標

まずは新聞というメディアの特性を十分に理解してもらおう。さらに新聞のさまざまな紙面に触れることで世の中で起こっている事象により深く関心を持ち、かつ自分の考えをもてるようになること。

## スケジュール

- 第1回 新聞はこう作る・概論 (石垣)
- 第2回 取材の方法と原稿の書き方 (石垣)
- 第3回 どうなる新聞-多様化するニュースメディア- (多田)
- 第4回 報道の現場から-新聞記者の仕事- (多田)
- 第5回 報道の現場-社会 (塚越)
- 第6回 報道の現場-政治・経済 (塚越)
- 第7回 報道の現場-スポーツ・文化 (石垣)
- 第8回 紙面のレイアウト (石垣)
- 第9回 記事を書こう。見出しをつけよう。 (多田)
- 第10回 新聞だけじゃない!新聞社の仕事 (多田)
- 第11回 裁判員裁判と事件報道 (塚越)
- 第12回 人権と知る権利、実名と匿名 (塚越)
- 第13回 新聞を上手に読むコツ (石垣)
- 第14回 地方創生と新聞社 (多田)
- 第15回 新聞の公共性 (塚越)

## 教科書・参考文献

教科書 必要に応じて紙面のコピーなどを資料として配布する。

参考書 適宜、必要に応じて紹介する。

## 授業外での学習

日ごろから新聞に接しておくこと。

## 評価方法

レポート50%、受講状況50%

## 履修上の注意

若者の新聞離れが進んでおり、新聞というものをほとんど見ていないという学生が増えてしまっている。新聞の面白さについても講義していく予定なので、日ごろから関心をもって新聞を読んでおくよう求める。  
※講義は米原守 (論説室論説委員)、高桑和彦 (編集局次長)、多田素生 (編集局報道部長) の3名が上記の内容・順番で行う予定です。(業務の都合により、担当者あるいは順番が変更となる場合があります)。



科目名 日本地域史  
Title Japanese Regional History  
科目区分 地域づくり発展科目

担当教員  
非常勤講師 川上 真理 (カワカミ マリ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 2	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

## 目的

この授業では、北海道・北東北と沖縄諸島が本州及び北東アジア・東アジアとの交流と交易のなかで、どのような歴史的特徴を形成してきたかを考え、日本という国が多様な歴史と文化を持つ地域のまとまりであることを理解する。

## 達成目標

アイヌ、琉球の歴史を説明できる。  
国境や境界領域の歴史的形成を説明できる。

## スケジュール

- 第1回 ガイダンス：講義計画と評価について / はじめに：地域史とは何か
- 第2回 アイヌと古代国家：擦文文化とオホーツク文化
- 第3回 アイヌと中世国家：アイヌ文化の成立
- 第4回 アイヌと近世国家(1)：異域支配の表象
- 第5回 アイヌと近世国家(2)：北東北の地域認識
- 第6回 アイヌと近世国家(3)：海峡と交流
- 第7回 アイヌと近世国家(4)：生業と信仰
- 第8回 琉球と日本：琉球の地域認識
- 第9回 琉球と中世国家：大航海時代の琉球王国
- 第10回 琉球と近世国家(1)：東アジアの動揺と琉球王国
- 第11回 琉球と近世国家(2)：琉球王国の政治制度
- 第12回 琉球と近世国家(3)：幕藩体制と琉球
- 第13回 近世国家の北と南：国内市場と琉球・松前
- 第14回 近代国家の北と南：内国植民地の過程
- 第15回 授業のまとめ

## 教科書・参考文献

教科書 教科書は指定せず、講義計画に基づいたレジュメを配布する。

参考書 菊池勇夫・真栄平房明編『列島史の南と北』吉川弘文館(2006年)、高良倉吉『琉球王国』岩波新書(1993年)、浪川健治『日本史リブレット50 アイヌ民族の軌跡』山川出版社(2004年)など。

## 授業外での学習

講義で示す参考文献を読んで予備知識を得、受講後はそれを読み直して理解を深める。

## 評価方法

リアクションペーパー(40%)と期末試験(60%)で評価する。

## 履修上の注意

著しい遅刻は欠席と見なす。

科目名 地域社会史  
Title History of Local Society  
科目区分 地域づくり発展科目

担当教員  
非常勤講師 川上 真理 (カワカミ マリ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次  
2

単位区分  
選択

単位数  
2

開講時期  
前期

## 目的

この講義では、江戸時代の村を文化・環境・福祉・ジェンダー・政治等の様々な局面から見渡し、近世から近代への移行に村社会が負った役割を考える。

## 達成目標

江戸時代の村に生きた人々の具体的なあり方を説明できる。  
近世史研究における地域社会論の意義を説明できる。

## スケジュール

- 第1回 ガイダンス：講義計画と評価について / はじめに：地域史とは何か
- 第2回 日本通史の概説(1)：古代の東国
- 第3回 日本通史の概説(2)：中近世の日本
- 第4回 日本通史の概説(3)：近現代の世界と日本
- 第5回 支配と地域(1)：村と自治
- 第6回 支配と地域(2)：藩と村のリーダー
- 第7回 経済と地域(1)：地場産業の仕組み
- 第8回 経済と地域(2)：人の移動と名所
- 第9回 家と地域(1)：葬送文化と家
- 第10回 家と地域(2)：女性と地域社会
- 第11回 地域のリーダー(1)：村役人の意識
- 第12回 地域のリーダー(2)：村役人の学問と情報
- 第13回 近代化と地域(1)：地域史の叙述
- 第14回 近代化と地域(2)：自由民権運動へ
- 第15回 授業のまとめ

## 教科書・参考文献

教科書 教科書は指定せず、講義計画に基づいたレジュメを配布する。

参考書 渡辺尚志『百姓たちの江戸時代』ちくまプリマー新書(2009年)など。

## 授業外での学習

講義で示す参考文献を読んで予備知識を得、受講後はそれを読み直して理解を深める。

## 評価方法

リアクションペーパー(40%)と期末試験(60%)で評価する。

## 履修上の注意

著しい遅刻は欠席と見なす。

科目名 アーツマネジメント論  
Title Arts Management  
科目区分 地域づくり発展科目

担当教員  
非常勤講師 若林 一恵 (ワカバヤシ カズエ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 2	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------------	----------	------------

## 目的

「アーツマネジメント」には、「アーツ＝芸術」と「マネジメント＝経営」という二つの用語が含まれている。本講義では、芸術の側の視点から地域社会との関係性について検討することを目的とする。特にここ高崎市は1990年以降「音楽のあるまち」を掲げていることもあり、本講義でも音楽分野を中心に扱う。アーツマネジメントを考える上で芸術分野に対する理解と敬愛は不可欠であるため、毎回さまざまな音源・映像資料の鑑賞時間を設ける。時おり音に対する感覚を高めるための活動も行う。最終的には履修学生が演奏会や美術展、各種イベント等を企画し、その企画書を作成した上で発表する機会を設ける。

## 達成目標

- ① 諸芸術をどのように社会に位置づけ、根付かせていくのかという視座をもてるようになること。
- ② ①を踏まえた意欲的な企画を考案し、企画書の作成と発表ができるようになること。

## スケジュール

- 第1回 インタロダクション：アーツマネジメントとは？
- 第2回 文化とは？芸術とは？
- 第3回 芸術支援における歴史と現在
- 第4回 クラシック音楽の演奏形態 / オペラ公演の裏側
- 第5回 「チラシ」とは？ / 広報・宣伝
- 第6回 主催公演の企画とチケット代金の価格設定
- 第7回 アーツマネジメントの実務に求められるもの
- 第8回 アートとアーツマネジメント再考①
- 第9回 アートとアーツマネジメント再考②
- 第10回 県内の事例 1 - 1：群馬交響楽団
- 第11回 県内の事例 1 - 2：映画『ここに泉あり』
- 第12回 県内の事例 2：草津夏期国際音楽アカデミー & フェスティバル
- 第13回 公演企画内容の発表：予選
- 第14回 公演企画内容の発表：決勝戦
- 第15回 まとめ

## 教科書・参考文献

教科書 特になし

参考書 武濤京子監修(2011)『クラシック音楽マネジメントー音楽の感動を届ける仕事ー』ヤマハ  
社団法人日本クラシック音楽事業協会(2013)『クラシック・コンサート制作の基礎知識』ヤマハ

## 授業外での学習

講義の内容に関する演奏会や美術展の情報に目を向け、積極的に芸術作品に触れること。

## 評価方法

授業内リアクションペーパー(40%)、公演企画書の内容および発表(60%)

## 履修上の注意

科目名 博物館概論  
Title Museum Studies  
科目区分 地域づくり発展科目

准教授 鈴木 耕太郎 (スズキ コウタロウ)  
担当教員 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
2	選択	2	前期

## 目的

本講義の主要目的は、博物館についての基本的な知識や現状認識を学習することにある。具体的には、

- (1) そもそも博物館とはどのような施設で、またどのような役割を果たしているのかを学ぶ。
- (2) 博物館および学芸員の活動を具体的に見ていくと共に、現在の社会で求められている役割を理解する。
- (3) 博物館が抱える現在の課題について理解すると共に、その解消策や打開策について検討する。

の3点があげられる。

なお、単に博物館に関する基礎知識を学ぶだけでなく、本講義受講後には、自分が学芸員の立場であれば / 博物館の運営責任者であれば、どのような博物館を目指し、造り上げていきたいかを具体的に語れるようになってもらいたい(講義の一環として、受講生同士のディスカッションなども取り入れる予定である)。

## 達成目標

近年、大都市圏のみならず地方の一部博物館において先鋭的な取り組みが行われ注目を集めているが、それらは他の博物館には見られない独自性が売りであると共に、小規模であっても地域に根差しているところが少ない。そこで、上記目的(1)~(3)の学習・理解を通して、最終的には受講生が博物館と地域社会とを積極的に結び付けて考えられるようになってもらいたい。

## スケジュール

- 第1回 インタロダクション(受講上の注意/評価方法等の確認など)+学芸員とは何者か—その定義と業務
- 第2回 博物館とは何か—博物館の定義と概要、その目的
- 第3回 博物館の歴史—博物館の成立ならびに発展
- 第4回 博物館における資料・史料の収集—アーカイブ機関としての博物館が果たす役割とは何か(1)
- 第5回 博物館における資料・史料の保存—アーカイブ機関としての博物館が果たす役割とは何か(2)
- 第6回 博物館と研究—研究機関としての博物館とは何か
- 第7回 博物館における資料の展示—収集し、研究された資料・史料の活用法
- 第8回 博物館と教育—教育機関としての博物館とは何か
- 第9回 博物館と生涯学習—学習の場としての博物館とは何か
- 第10回 博物館と地域文化—文化発信拠点としての博物館の可能性
- 第11回 博物館と地域社会—地域が支え、地域を変える博物館を考える
- 第12回 博物館と災害—被災資料をどう扱うべきか
- 第13回 博物館と人類の歴史—博物館を通して見えてくること
- 第14回 博物館の現状と課題—博物館は何を乗り越えていくべきか(1)
- 第15回 博物館の現状と課題—博物館は何を乗り越えていくべきか(2)

## 教科書・参考文献

教科書 レジユメを配布するため、特に使用しない。ただし、下記の参考書は余裕があれば各自、一読しておくこと。

- 参考書 1、吉田憲司 編『博物館概論』(放送大学教育振興会、2011年)  
2、大堀哲・水嶋英治『博物館学I』(学文社、2012年)など ※その他、講義中に適宜指示する。

## 授業外での学習

中間小レポート課題とかがわかるが、群馬県内のみならず近隣都県(近隣でなくても可)の博物館施設をなるべく多く見学していただきたい。お金と時間と労力が必要となるが、その点はご了承いただきたい。

## 評価方法

期末考査(記述型考査)が60%、中間小レポート(2回分)が20%、コミュニケーションペーパー/小テストが20%とする。

中間小レポートは最低でも1回は必ず提出すること。1回も提出していない場合は原則として単位は認めない。

## 履修上の注意

学芸員資格取得を目指す学生だけでなく、広く社会教育や文化の発信に興味がある学生はぜひ受講していただきたい。ただし、資格科目でもあるため出欠や遅刻の扱いは厳しいので、そこだけは注意していただきたい(楽しく学ぶ環境作りには努めたい)。なお、私語や居眠りなどが見られた場合は、速やかな退室を指示する。

科目名 博物館経営論  
Title Museum Management  
科目区分 地域づくり発展科目

担当教員  
非常勤講師 小菅 将夫 (コスゲ マサオ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 2	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

## 目的

博物館を運営する上で重要と考えられるテーマを取り上げ、博物館経営にはどのような課題があるのか、そして、博物館経営の根本的なあり方とは何かを学ぶ。博物館を運営することによって生起する、内的、外的な事象に、どのように対処し、全体をマネジメントしたらよいかといった、運営の方向性を考える。また、現在の日本における経済的な危機状況の中で、博物館運営において直面するであろう、実際の問題点についても検討を加える。

## 達成目標

講義全体を通して、博物館運営の根本的な理念を学ぶこと。そして、博物館がかかえる現代的課題とは何かを、いくつかのテーマに基づいて理解し、博物館運営の方向性を理解すること。

## スケジュール

- 第1回 博物館経営とは何か(オリエンテーション)
- 第2回 博物館の設立とその過程
- 第3回 博物館の施設と設備
- 第4回 博物館の組織と学芸員
- 第5回 教育活動と博物館
- 第6回 博物館とボランティア及び外部団体
- 第7回 博物館の行財政と行政評価
- 第8回 ミュージアム・マーケティングについて
- 第9回 指定管理者制度と博物館
- 第10回 博物館における危機管理
- 第11回 博物館とレクリエーション、観光文化
- 第12回 博物館相互のネットワーク
- 第13回 地域社会と博物館
- 第14回 博物館運営における理念
- 第15回 総括授業

## 教科書・参考文献

教科書 授業において適宜、プリントを配布する。

参考書 『新編博物館講座12 博物館経営論』 雄山閣出版 など

## 授業外での学習

地元である群馬県内には多数の博物館が存在する。身近にある博物館を訪ねるとともに、その具体的な活動・運営に積極的に関心をもって接すること。

## 評価方法

受講状況及び期末試験によって、総合的に評価する。  
受講状況 40%、期末試験 60%

## 履修上の注意

博物館やそれを取り巻く行政や地域社会などにも目を向けること。

科目名 博物館資料論  
Title Museum Materials  
科目区分 地域づくり発展科目

担当教員  
非常勤講師 杉山 秀宏 (スギヤマ ヒデヒロ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
2	選択	2	後期

## 目的

博物館の基礎となる資料について理解してもらう。博物館資料の取り扱いの歴史について述べ、資料の種類・収集・分類・整理・収納について説明する。さらに様々な資料(考古・歴史・民俗系)の実物を、具体的に取り上げる。それらの資料を使用しての展示・活用・保存などについて具体的に説明する。特に博物館の展示活動についてはその具体的な例を元に説明する。また、最近重要視される資料を活かしての活用普及体験活動についても説明する。博物館の資料にとって重要な調査研究についても取り上げる。最後に、博物館資料を活かした将来の博物館活動の在り方について検討する。授業では、奈良県橿原考古学研究所(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・太田女子高校・群馬県立歴史博物館・群馬県教委文化財保護課などに在籍して、調査・研究・教育・学芸活動・文化財行政などに関わった今までの経験を活かした内容で授業を進めていきたい。

## 達成目標

博物館における資料の重要性を理解することが目標である。博物館の基礎的な活動である資料の調査・収集・分類・保管について押さえ、最重要な活動である展示にいかに関わり資料を活かすかを理解してもらう。また、今後重要となるであろう資料を活かした参加型の体験活動などについて理解を深めてもらう。

## スケジュール

- 第1回 博物館資料とは(資料取り扱いの歴史から)
- 第2回 博物館資料の種類・収集
- 第3回 博物館資料の分類/  
博物館資料の分類・整理 1 - 考古資料について -
- 第4回 博物館資料の分類・整理 2 - 民俗・美術資料について -
- 第5回 博物館資料の分類・整理 3 - 文書・自然史資料について -
- 第6回 博物館資料の収集
- 第7回 博物館資料の受入から収蔵
- 第8回 博物館資料の保存処理・修復・復元
- 第9回 博物館資料の調査・研究
- 第10回 博物館資料の製作
- 第11回 博物館資料の展示 1 - 展示の種類 -
- 第12回 博物館資料の展示 2 - 具体例を上げて -
- 第13回 博物館資料の活用(体験学習他)
- 第14回 博物館資料を通じた他分野との協力
- 第15回 総括と未来への展望について

## 教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。

参考書 特に指定しない。

## 授業外での学習

受講者が積極的に近在・都心部の博物館・資料館を見学することを推奨する。その中で、それぞれの博物館・資料館での資料の取り扱い方・展示方法について観察し、それぞれの特徴を把握して、資料を通して観覧者に何を訴えようとしているのか想定することで、博物館がどのように資料を扱うべきかを自分なりに把握する。

## 評価方法

授業への貢献度(30%)とレポート(70%)により評価する。

## 履修上の注意

後期に開講する。毎週、平日1コマで実施する。

科目名 博物館情報・メディア論  
Title Museum Information and Media Studies  
科目区分 地域づくり発展科目

担当教員  
非常勤講師 大工原 豊 (ダイクハラ ユタカ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
2	選択	2	前期

## 目的

近年、IT(情報技術)とICT(情報・コミュニケーション技術)が目まぐるしく発達し、博物館でもVR(仮想現実)、AR(拡張現実)やプロジェクションマッピング、3D映像などが利用されるようになってきた。また、デジタル化された資料データが博物館に蓄積されるようになり、デジタル・アーカイブの構築の必要性が高まってきた。そして、インターネットを通じて博物館から情報発信も活発化し、情報センターとしての社会的ニーズも要求されている。そうなるに知的財産の管理方法や著作権の取り扱いなどの法的知識も必要とされる。その一方、高齢化社会に対応した紙媒体によるアナログ情報の提供は切り捨てられないし、ユニバーサルデザインを利用して障がい者に対するきめ細かい対応も必要である。そこで、本授業では博物館における情報とメディア(媒体)についての基礎を理解し、さらにその応用方法についても理解することを目的とする。

## 達成目標

- ①博物館における情報とメディアについての基礎を理解する。
- ②最近用いられている情報伝達技術にはどのような種類があるか理解する。
- ③ネットでの情報発信の方法やデジタル・アーカイブについての概要と実践例について学ぶ。
- ④知的財産の管理方法と著作権についての基礎を理解する。

## スケジュール

- 第1回 ガイダンス 授業スケジュールの説明、博物館の情報とメディアとは何か?
- 第2回 博物館における情報とメディアの基礎 記号論的に見た情報とメディア
- 第3回 博物館とメディアの発展史
- 第4回 博物館におけるメディア・リテラシー(1) 写真映像とビデオ映像
- 第5回 博物館におけるメディア・リテラシー(2) メディアを活用したさまざまな展示方法
- 第6回 博物館展示の解説 解説文の作成方法・誰に何を伝えるのか?
- 第7回 資料のドキュメンテーションとデータベースの構築
- 第8回 資料のデジタル・アーカイブの構築の現状と課題
- 第9回 博物館のインターネット利用 ホームページからの情報発信と情報センターとしての社会的ニーズ
- 第10回 博物館の出版活動 展示図録・年報・DVDなどの出版
- 第11回 ユニバーサル・ミュージアムと情報・メディア 障がい者にやさしい博物館
- 第12回 博物館における知的財産の管理 情報倫理と情報公開の方法
- 第13回 博物館における著作権の取り扱い どこまで著作権で保護されているか?
- 第14回 群馬県内の博物館における情報とメディアの活用の実情コラボレーション
- 第15回 総括授業

## 教科書・参考文献

教科書 特に教科書は使用しない。授業時に資料を配付する。

参考書 『博物館情報・メディア論』日本教育メディア学会 ぎょうせい 『博物館情報・メディア論』稲村 哲也・近藤智嗣 放送大学教育振興会 『博物館学III』大堀哲・水嶋英治 学文社

## 授業外での学習

授業時の配布資料により予習・復習する。さらに学習を深めたい時には参考図書により学習したり、ネットにより調べ学習を行う。また、身近にある博物館を見学し、情報・メディア論的視点から展示を確認してみる。

## 評価方法

平常点及び試験によって評価する。平常点は授業態度、コメントシートによる質問、月末(2回)に行う小テスト等により評価する。学期末の試験は記述式で行う(配付資料・ノート・参考図書の持ち込み可)。平常点30%、試験70%とする。

## 履修上の注意

授業は原則としてPowerPointを用いた講義形式で行うが、一部のテーマは受講者の意見発表を行ってもらう。受講希望者は事前に教務チームに申請すること。

科目名 博物館資料保存論  
Title Preservation and Inheritance of Museum Collections  
科目区分 地域づくり発展科目

担当教員 西沢 淳男 (ニシザワ アツオ)  
担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 2 単位区分 選択 単位数 2 開講時期 後期

## 目的

1996年の博物館法施行規則の改正により博物館資料論が設けられた。さらに2009年の改正法公布により資料保存論が新科目として追加されることとなった。人文系と自然系の博物館や美術館では自ずと資料保存に関する技術や方法は異なるが、主として人文系(もともと数の多い歴史系博物館)博物館中心の講義となる。前半は概論、後半は各論とする。また、公文書館の整備が未だ不十分なために、博物館における資料保存=公文書館的役割(学芸員のアーキビスト的役割)についてもふまえていきたい。

## 達成目標

講義では座学が主体である以上、保存技術ではなく博物館資料を収集し恒久的に保存をして、調査・研究・展示し、後世へ伝えていく博物館の使命の重要性を認識することが目標である。

## スケジュール

第1回	受講ガイダンス・アンケート	講義概要、評価、受講予備アンケート
第2回	博物館資料一次資料と二次資料	保存と活用
第3回	博物館資料の保存	資料ドキュメンテーション
第4回	資料整理と保存	整理・保存と温湿度管理
第5回	収蔵管理と環境管理(1)	保存計画と予防保存
第6回	収蔵管理と環境管理(2)	IPMの実践
第7回	歴史資料の保存(1)	公文書館と博物館の相違と役割
第8回	歴史資料の保存(2)	文献史料の収集・整理と保存/古文書整理疑似体験
第9回	考古資料の保存	考古資料の修復と保存
第10回	民俗資料の保存	有形資料と無形資料の保存
第11回	工コミュージアム	地域住民主体の保存活動
第12回	文化財の保存と活用	地域の優れた文化遺産を未来に生かす
第13回	受講者による報告	受講者による調査レポートと討論
第14回	受講者による報告	受講者による調査レポートと討論
第15回	受講者による報告	受講者による調査レポートと討論

## 教科書・参考文献

教科書 なし。各回プリント配布。

参考書 2回目の授業時紹介する

## 授業外での学習

当該回の参考文献は、よく読んでおくこと。授業後は、次回に向けて配付資料・授業内容をよく復習し、知識の定着を図ること。

## 評価方法

調査発表及び発表をまとめたレポート(67%)に、毎回のリアクションペーパー(3点×11回、33%)と参加状況等を加味して行う。出席は毎回厳密に取りります。遅刻2回で欠席1回と見なします。公欠は除く。5分経過から遅刻、30分経過から欠席扱いにします。

## 履修上の注意

単位取得には博物館(相当施設も含む)への調査発表とレポートとが必修であるので留意して望むこと。毎回評価対象のリアクションペーパーを求めます。資格取得とは関係なしの受講も問題ありません。特に、博物館への聞き取り調査があるため、前半の総論の講義を多く欠席した場合、調査を許可しませんので、単位取得は困難となります。



科目名 博物館教育論  
Title Museum Education Theory  
科目区分 地域づくり発展科目

担当教員  
非常勤講師 池田 悦夫 (イケダ エツオ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 2	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

## 目的

考古学資料を題材として、加えて、東京国立博物館客員研究員や文京区教育委員会学芸員の実務経験を活かしながら、学芸員が博物館教育を行うまでにどのような過程を辿るのか、学芸員は博物館教育を具体的にどのように実践しているのか等、博物館における職場の空気を紹介すると共に、博物館資料に実際に触れる機会を設けて、博物館教育の概要を理解し博物館教育に関わる基礎知識の習得を目指します。さらに、学校教育とは異なる教育委員会が行う文化・教育関連業務についての知識を養います。

## 達成目標

博物館教育に関わる基礎知識の習得を目指します。さらに、学校教育とは異なる教育委員会が行う文化・教育関連業務についての知識を養います。

## スケジュール

- 第1回 インタロダクション (講義概要、評価方法、受講アンケート)
- 第2回 博物館教育入門 (博物館教育関連法令・博物館教育の歴史)
- 第3回 博物館教育に至る経緯① (文化財保護法と事務取扱業務) (調整)
- 第4回 博物館教育に至る経緯② (埋蔵文化財発掘調査と博物館教育) (資料収集)
- 第5回 博物館教育に至る経緯③ (整理調査) (保管・管理・研究)
- 第6回 博物館教育に至る経緯④ (展示と研究発表会) (展示、教育・普及)
- 第7回 教育委員会と文化・教育関連業務 (国指定特別史跡特別名勝と現状変更)
- 第8回 博物館の利用と学び (博物館の教室と学校教育)
- 第9回 博物館教育の実際① (博物館講座と生涯学習①)
- 第10回 博物館教育の実際② (博物館講座と生涯学習②)
- 第11回 博物館教育の実際③ (博物館講座と生涯学習③)
- 第12回 博物館教育の実際④ (博物館講座と生涯学習④)
- 第13回 博物館教育の実際⑤ (博物館講座と生涯学習⑤)
- 第14回 博物館教育の実際⑥ (博物館講座と生涯学習⑥)
- 第15回 総括授業 (質疑応答 試験について)

## 教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。必要に応じてプリント配布

参考書 プリント配布に記載、または、その都度、指示します。

## 授業外での学習

次回の授業範囲に関連する項目について、博物館、美術館等に足をはこび積極的に情報を収集すること。また、授業後は必ずノートや配付資料に目を通し、学習内容の定着を図ること。

## 評価方法

平常点 (45%)、期末試験 (55%)

## 履修上の注意

平常点は、質問に対する応答の仕方や参加態度など授業に臨む姿勢 (15%)、毎回のショートコメントとその内容 (30%) です。

私語・遅刻・授業中のスマートフォンの使用は厳しく対処します。出席は厳密にとり毎回授業に関するショートコメントを求め、これをもって出席のカウントとします (授業欠席届を提出できる事由に該当する場合は除く)

科目名 博物館展示論  
Title Museum Exhibition  
科目区分 地域づくり発展科目

担当教員  
非常勤講師 池田 悦夫 (イケダ エツオ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
2	選択	2	前期

## 目的

講義は、博物館展示の意義やその歴史を踏まえた上で、多様な館種の展示の紹介や博物館資料の貸出等博物館展示現場の実態を紹介いたします。東京国立博物館客員研究員や文京区教育委員会学芸員の実務経験を活かし、可能であれば車座形式により博物館資料を実際に手で触れることで、展示に不可欠な基礎的資料の取扱い方法や展示の解説活動に欠かせない博物館学芸員としての専門性の理解を深めることを目的とします。

## 達成目標

講義は、博物館展示現場の実態を認識していただくと共に、展示を行う上でどのような専門性が博物館学芸員として問われるのか、専門知識の一端に触れると共に、陶磁器・刀剣・銅鏡・掛副等の博物館資料を用いて展示に関する基礎的知識や技術の習得を目指します。スケジュールは講義の進行状況により変わる場合があります。

## スケジュール

- 第1回 インタロダクション (講義概要、評価方法、受講予備アンケート)
- 第2回 博物館展示入門 (博物館展示の歴史、博物館展示関係法令)
- 第3回 館種別展示の諸形態 (博物館、美術館、民俗歴史博物館、考古学博物館等の展示)
- 第4回 館種別展示の形態と特性 (常設展示と企画展示、館内展示と館外展示)
- 第5回 博物館展示の多様性① (公共施設的博物館、大学博物館、企業博物館等の展示)
- 第6回 博物館展示の多様性② (国立博物館、都・県立博物館、区市町村立博物館の展示)
- 第7回 博物館展示の評価方法 (展示評価の視点)
- 第8回 資料の貸出と借用① (考古学資料の貸出と借用)
- 第9回 資料の貸出と借用② (仏像の貸出と借用)
- 第10回 展示の実践① (工芸品の取扱い方法と展示①)
- 第11回 展示の実践② (工芸品の取扱い方法と展示②)
- 第12回 展示の実践③ (工芸品の取扱い方法と展示③)
- 第13回 展示の実践④ (絵画資料の取扱い方法と展示①)
- 第14回 展示の実践⑤・小試験 (絵画資料の取扱い方法と展示②)
- 第15回 総括授業 (質疑応答、試験について)

## 教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。必要に応じてプリント配布

参考書 プリント配布に記載、または、その都度、指示します。

## 授業外での学習

次回の授業範囲に関連する項目について、博物館、美術館等に足を運び、積極的に情報を収集すること。また、授業後は、ノートや配布資料に目を通し、学習内容の定着を図ること。

## 評価方法

平常点 (55%・授業内に行う小試験を含む)、期末試験 (45%)

## 履修上の注意

平常点は、質問に対する応答の仕方や参加態度など授業に臨む姿勢 (15%)、毎回のショートコメントとその内容 (30%)、小試験 (10%) です。

私語・遅刻・授業中のスマートフォンの使用は厳しく対処します。出席は厳密にとり毎回授業に関するショートコメントを求め、これをもって出席のカウントとします (授業欠席届を提出できる事由に該当する場合は除く)

科目名 地域づくり教育論  
Title Education for Community Development  
科目区分 地域づくり発展科目

担当教員 櫻井 常矢 ( サクライ ツネヤ ) 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 2 単位区分 選択 単位数 2 開講時期 前期

## 目的

近年、少子高齢化、過疎、環境問題、国際化、子育てなどの地域課題の深刻化とともに、市民参加や協働(パートナーシップ)によるまちづくり、青年世代や団塊世代の労働や社会参加、あるいは、地域コミュニティの再生・創造に向けた様々な実践が各地で展開しつつある。そこではまた、地域づくりに対応した学習や社会参加活動が実践的に追求されている。社会参加の推進は生涯学習社会を具体的に支える重要な要素となる。本講義では、ボランティア(図書館・博物館等の施設ボランティア含む)、市民活動・NPO、学社融合、大学開放などの新たな社会をつくる学びについて着目し、その特性への理解を深める。特に、NPOの教育力を取り上げ、地域づくりにかかわる具体的な実践をもとに、現代社会における学習の共同性や公共性を再検討し、分権時代に果たす生涯学習の役割を展望する。

## 達成目標

日本の生涯学習政策が抱える課題への理解を前提としながら、①NPOがもつ教育力特性への理論的理解を深めること、②具体的事例の検討を通して、現代生涯学習に果たすNPOの可能性と課題について自分なりの見解を得ることを到達目標とする。

## スケジュール

- 第1回 インタロダクション : 講義概要、スケジュール、評価方法等
- 第2回 生涯学習政策の展開と市民の学び : 国家・市場・地域と教育・学習 コミュニティ
- 第3回 ボランティア・NPOと生涯学習 : なぜ今、NPOなのか / NPOの実践と生涯学習
- 第4回 生涯学習社会と地域づくり教育(1) : 家庭教育・学校教育・地域づくり教育
- 第5回 生涯学習社会と地域づくり教育(2) : Non Formal Educationの構造と機能
- 第6回 NPO / 市民活動の学習内容・方法(1) : NPOの組織特性・社会教育的性格
- 第7回 NPO / 市民活動の学習内容・方法(2) : NPOの組織構造と「参加」
- 第8回 規制緩和・地方分権と生涯学習 : 民営化戦略としてのNPO
- 第9回 NPOの教育力 実践事例(1) : 地域コミュニティ再生とNPO
- 第10回 NPOの教育力 実践事例(2) : 社会教育施設運営とNPO
- 第11回 NPOの教育力 実践事例(3) : 中間支援組織(施設)における教育・学習
- 第12回 NPOの教育力 実践事例(4) : 地域生涯学習を支える人材・組織の課題と展望
- 第13回 地域コミュニティ再生と生涯学習 : 東日本大震災・復興支援の実践から
- 第14回 分権社会における生涯学習システム 地域をつくる市民の学び
- 第15回 まとめ : 現代生涯学習の展望と課題

## 教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。

参考書 下記のほか適宜講義内で紹介する。佐藤一子編『NPOの教育力』東京大学出版会,2004年、松田武雄編著『現代の社会教育と生涯学習』九州大学出版会,2013年

## 授業外での学習

今回の講義に関連する内容について講義内で指定(配布)した資料など予習をしておくほか、新聞やニュースなどからも積極的に情報収集すること。また講義後は、必ずノートや配布資料に目を通し学習内容の定着に取り組むこと。

## 評価方法

受講状況並びに小テスト・レポート等の講義期間中の課題(40%)そして定期試験(60%)をもとに総合的に評価する。

## 履修上の注意

- ◇「生涯学習概論」の内容を前提とした講義展開のため、「生涯学習概論」を受講していることが望ましい。
- ◇講義は、適宜必要な資料等を取り上げるとともに、できるだけ具体的な事例に即して考えていく。

科目名 地域づくり教育論  
Title Education for Community Development  
科目区分 地域づくり発展科目

担当教員  
教授 櫻井 常矢 ( サクライ ツネヤ )

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
2	選択	2	前期

## 目的

近年、少子高齢化、過疎、環境問題、国際化、子育てなどの地域課題の深刻化とともに、市民参加や協働(パートナーシップ)によるまちづくり、青年世代や団塊世代の労働や社会参加、あるいは、地域コミュニティの再生・創造に向けた様々な実践が各地で展開しつつある。そこではまた、地域づくりに対応した学習や社会参加活動が実践的に追求されている。社会参加の推進は生涯学習社会を具体的に支える重要な要素となる。本講義では、ボランティア(図書館・博物館等の施設ボランティア含む)、市民活動・NPO、学社融合、大学開放などの新たな社会をつくる学びについて着目し、その特性への理解を深める。特に、NPOの教育力を取り上げ、地域づくりにかかわる具体的な実践をもとに、現代社会における学習の共同性や公共性を再検討し、分権時代に果たす生涯学習の役割を展望する。

## 達成目標

日本の生涯学習政策が抱える課題への理解を前提としながら、①NPOがもつ教育力特性への理論的理解を深めること、②具体的事例の検討を通して、現代生涯学習に果たすNPOの可能性と課題について自分なりの見解を得ることを到達目標とする。

## スケジュール

- 第1回 インタロダクション : 講義概要、スケジュール、評価方法等
- 第2回 生涯学習政策の展開と市民の学び : 国家・市場・地域と教育・学習 コミュニティ
- 第3回 ボランティア・NPOと生涯学習 : なぜ今、NPOなのか / NPOの実践と生涯学習
- 第4回 生涯学習社会と地域づくり教育(1) : 家庭教育・学校教育・地域づくり教育
- 第5回 生涯学習社会と地域づくり教育(2) : Non Formal Educationの構造と機能
- 第6回 NPO / 市民活動の学習内容・方法(1) : NPOの組織特性・社会教育的性格
- 第7回 NPO / 市民活動の学習内容・方法(2) : NPOの組織構造と「参加」
- 第8回 規制緩和・地方分権と生涯学習 : 民営化戦略としてのNPO
- 第9回 NPOの教育力 実践事例(1) : 地域コミュニティ再生とNPO
- 第10回 NPOの教育力 実践事例(2) : 社会教育施設運営とNPO
- 第11回 NPOの教育力 実践事例(3) : 中間支援組織(施設)における教育・学習
- 第12回 NPOの教育力 実践事例(4) : 地域生涯学習を支える人材・組織の課題と展望
- 第13回 地域コミュニティ再生と生涯学習 : 東日本大震災・復興支援の実践から
- 第14回 分権社会における生涯学習システム 地域をつくる市民の学び
- 第15回 まとめ : 現代生涯学習の展望と課題

## 教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。

参考書 下記のほか適宜講義内で紹介する。佐藤一子編『NPOの教育力』東京大学出版会,2004年、松田武雄編著『現代の社会教育と生涯学習』九州大学出版会,2013年

## 授業外での学習

今回の講義に関連する内容について講義内で指定(配布)した資料など予習をしておくほか、新聞やニュースなどからも積極的に情報収集すること。また講義後は、必ずノートや配布資料に目を通し学習内容の定着に取り組むこと。

## 評価方法

受講状況並びに小テスト・レポート等の講義期間中の課題(40%)そして定期試験(60%)をもとに総合的に評価する。

## 履修上の注意

- ◇「生涯学習概論」の内容を前提とした講義展開のため、「生涯学習概論」を受講していることが望ましい。
- ◇講義は、適宜必要な資料等を取り上げるとともに、できるだけ具体的な事例に即して考えていく。

科目名 地域教育ガバナンス論  
Title Community Governance for Education  
科目区分 地域づくり発展科目

担当教員  
非常勤講師 笹井 宏益 ( ササイ ヒロミ )

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 2	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------------	----------	------------

## 目的

「社会教育は地域づくりにおける人づくりである」という本質を理解するとともに、地域の人たちのボランティア活動が、自らのコミュニティの運営にどのようにかわり、その充実にとっていかにより重要な役割を果たしているかについて、様々な角度から考察する。

## 達成目標

社会教育の本質とその地域づくりとの関係を理解するとともに、統治、協治（ガバナンス）、ボランティア、市民活動、協働など現代のコミュニティにとって欠くことのできない基本概念を整理・理解し、それらと教育行政との関係について考察する。

## スケジュール

- 第1回 オリエンテーション、授業計画についての説明
- 第2回 社会教育とは何か
- 第3回 地域づくりと社会教育との関係（理論）
- 第4回 地域づくりと社会教育との関係（事例）
- 第5回 伝統的な統治機構の仕組み
- 第6回 教育委員会行政の仕組み
- 第7回 社会教育行政の仕組み
- 第8回 「新しい公共」論の意義と課題
- 第9回 ボランティア活動の意義、役割、課題
- 第10回 市民活動とボランティア
- 第11回 NPOと協働
- 第12回 社会教育施設・社会教育団体とガバナンス（1）
- 第13回 社会教育施設・社会教育団体とガバナンス（2）
- 第14回 今後のコミュニティ・ガバナンスの展望
- 第15回 まとめ

## 教科書・参考文献

教科書 特になし。必要に応じ授業内で資料等を配布する。

参考書 「生涯学習のイノベーション」玉川大学出版部、笹井宏益ほか著、2013年

## 授業外での学習

市内の社会教育施設や社会教育団体を訪問し、授業での問題意識にそって関係者と議論を行うことで、理解を深めることとしたい。また、授業後は必ずノートや配付資料に目をおし、様々なメディアを活用して積極的に授業内容にかかる情報収集を行い、学習内容の定着を図ること

## 評価方法

授業内でのレポート20%、成績評価のための試験（またはレポート）80%

## 履修上の注意

特になし。

科目名 地域社会教育計画論  
Title Social Education Plan for Community Development  
科目区分 地域づくり発展科目

担当教員  
非常勤講師 笹井 宏益 ( ササイ ヒロミ )

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 2	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

## 目的

地域づくりにおける社会教育行政の意義や役割を踏まえ、公共政策としての「社会教育計画」の位置づけ、意義、構造、策定プロセス等を理解するとともに、現代の地域社会が抱える諸課題を解決するための社会教育計画の視点や内容について、様々な角度から考察する。

## 達成目標

地域づくりにおける社会教育行政を行うツールとしての社会教育計画の意味を理解するとともに、現代にふさわしい計画内容とは何かについて考察する。

## スケジュール

- 第1回 オリエンテーション、授業計画についての説明
- 第2回 地域づくりにおける社会教育行政の意義 ( 1 )
- 第3回 地域づくりにおける社会教育行政の意義 ( 2 )
- 第4回 公共政策と社会教育行政
- 第5回 行政の仕組みと計画行政 ( 1 )
- 第6回 行政の仕組みと計画行政 ( 2 )
- 第7回 社会教育計画の特徴 ( 構造 )
- 第8回 社会教育計画の特徴 ( 内容 )
- 第9回 社会教育計画の特徴 ( 策定手続き )
- 第10回 社会調査と計画づくり ( 統計資料との関係 )
- 第11回 社会調査と計画づくり ( 調査方法との関係 )
- 第12回 社会調査と計画づくり ( 上位計画との関係 )
- 第13回 地域のニーズやイシューの計画への取り込み方
- 第14回 現代的課題の内容・特徴
- 第15回 高崎市が必要とする社会教育計画

## 教科書・参考文献

教科書 特になし。必要に応じ授業内で資料等を配布する。

参考書

## 授業外での学習

授業後は必ずノートや配付資料に目をとおり、様々なメディアを活用して積極的に授業内容にかかる情報収集を行い、学習内容の定着を図ること。

## 評価方法

授業内でのレポート20%、成績評価のための試験 ( またはレポート ) 80%

## 履修上の注意

特になし。

科目名 地域社会教育支援論  
Title Social Education Work for Community Development  
科目区分 地域づくり発展科目

担当教員  
非常勤講師 笹井 宏益 ( ササイ ヒロミ )

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 2	単位区分 選択	単位数	開講時期 後期
-----------	------------	-----	------------

## 目的

地域づくりにおける社会教育行政の意義や役割を踏まえ、公共政策としての「社会教育計画」の位置づけ、意義、構造、策定プロセス等を理解するとともに、現代の地域社会が抱える諸課題を解決するための社会教育計画の視点や内容について、様々な角度から考察する。

## 達成目標

地域づくりにおける社会教育行政を行うツールとしての社会教育計画の意味を理解するとともに、現代にふさわしい計画内容とは何かについて考察する。

## スケジュール

- 第1回 オリエンテーション、授業計画についての説明
- 第2回 地域づくりにおける社会教育行政の意義 ( 1 )
- 第3回 地域づくりにおける社会教育行政の意義 ( 2 )
- 第4回 公共政策と社会教育行政
- 第5回 行政の仕組みと計画行政 ( 1 )
- 第6回 行政の仕組みと計画行政 ( 2 )
- 第7回 社会教育計画の特徴 ( 構造 )
- 第8回 社会教育計画の特徴 ( 内容 )
- 第9回 社会教育計画の特徴 ( 策定手続き )
- 第10回 社会調査と計画づくり ( 統計資料との関係 )
- 第11回 社会調査と計画づくり ( 調査方法との関係 )
- 第12回 社会調査と計画づくり ( 上位計画との関係 )
- 第13回 地域のニーズやイシューの計画への取り込み方
- 第14回 現代的課題の内容・特徴
- 第15回 高崎市が必要とする社会教育計画

## 教科書・参考文献

教科書 特になし。必要に応じ授業内で資料等を配布する。

参考書

## 授業外での学習

授業後は必ずノートや配付資料に目をとおり、様々なメディアを活用して積極的に授業内容にかかる情報収集を行い、学習内容の定着を図ること。

## 評価方法

授業内でのレポート20%、成績評価のための試験 ( またはレポート ) 80%

## 履修上の注意

特になし。

科目名 地域社会教育支援論  
Title Social Education Work for Community Development  
科目区分 地域づくり発展科目

---

担当教員 担当教員との連絡方法  
非常勤講師 笹井 宏益 ( ササイ ヒロミ )

E-Mail

---

配当年次  
2

単位区分

単位数  
2

開講時期  
後期

---

目的

---

達成目標

---

スケジュール

---

教科書・参考文献  
教科書  
参考書

---

授業外での学習

---

評価方法

---

履修上の注意



科目名 子ども福祉と社会教育  
Title Social Education and Child Welfare  
科目区分 地域づくり発展科目

担当教員  
非常勤講師 片岡 了 (カタオカ リョウ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 2	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

### 目的

市民による福祉の主体形成を引き出す学習と、その支援のあり方を基本に、子どもを中心とした福祉と社会教育の取り組みについて理解を得ます。とくに、地球規模で広がる子ども・青年の貧困・格差の現実と向き合いながら、現代の子どもと大人が共同で豊かな関係を創り出す社会教育の意義を学ぶことにします。授業の前半部は、福祉と社会教育の関わりを歴史的・国際的視点から学び、社会問題の解決に向かう社会教育の現代的な意義を理解していくとともに、学習や福祉活動の主体となっていく子ども・青年の主体形成への視点について学ぶようにします。また後半部では、子ども・青年の生活と「学び」の基盤となる地域社会の教育環境づくりの実際に学びながら、子ども福祉のあり方と社会教育の課題について考えます。

### 達成目標

世界に広がる子ども・青年の貧困・格差を中心とする現代の社会問題の解決に向かう社会教育の可能性について学びながら、1) 社会教育の基本的知識を習得すること、2) 現代社会への問題関心を深めること、3) 子ども福祉の実現に向けた社会教育的アプローチを理解することを到達目標にします。

### スケジュール

- 第1回 インタロダクション：授業の進め方、履修上の要点、成績の評価
- 第2回 福祉と社会教育の歴史：貧困問題、社会事業、教育的救済
- 第3回 地域福祉と社会教育の連携：安全安心社会、公民館、地域づくり
- 第4回 社会教育における子ども理解：遊び、発達保障、生活習慣
- 第5回 子どもの権利条約と社会教育：意見表明権、文化権、社会参加
- 第6回 子ども・子育て政策と社会教育：少子高齢化、育児不安、共同の子育て
- 第7回 子どもと障害者の貧困と社会教育：グローバル化、社会的排除、ネットワーク
- 第8回 子どもの人権保障：虐待・いじめ、権利擁護、オンブスパーソン
- 第9回 子どもの居場所づくり：仲間関係、たまり場、ユースワーク、子ども食堂
- 第10回 子ども文化と社会教育：子ども図書館、子ども博物館、子ども大学
- 第11回 地域の子どもの遊び・スポーツ集団：スポーツ少年団、プレイパーク、子ども自治
- 第12回 子どもの社会化と地域活動：奉仕活動、ボランティア、子どもNPO
- 第13回 世代間交流と地域社会・学校：地域の教育力、地域教育組織、開かれた学校づくり
- 第14回 子どもの育ちと地域支援事業：学童保育、児童館、放課後事業、学習教室
- 第15回 子ども福祉と社会教育の課題：子ども大人関係、循環型社会、連携事業

### 教科書・参考文献

教科書 辻浩『現代教育福祉論』（ミネルヴァ書房、2017年）

参考書 社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』（エイデル研究所、2017年）

### 授業外での学習

毎回授業内容に関わる課題をもうけるのでこれに取り組むこと。

### 評価方法

平常点（課題の取り組み、出席状況、参加姿勢）により成績評価を行います。

### 履修上の注意

授業内容の理解を確認しながら授業を進めていきますが、日頃より地域で営まれている社会教育・学習に関心を持って過ごし、授業では積極的な参加を期待します。授業の際、グループになって課題に取り組むことがあります。

科目名 社会教育課題研究  
Title Study on Social Education  
科目区分 地域づくり発展科目

担当教員  
非常勤講師 片岡 了 (カタオカ リョウ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 2	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

### 目的

市民による福祉の主体形成を引き出す学習と、その支援のあり方を基本に、子どもを中心とした福祉と社会教育の取り組みについて理解を得ます。とくに、地球規模で広がる子ども・青年の貧困・格差の現実と向き合いながら、現代の子どもと大人が共同で豊かな関係を創り出す社会教育の意義を学ぶことにします。授業の前半部は、福祉と社会教育の関わりを歴史的・国際的視点から学び、社会問題の解決に向かう社会教育の現代的な意義を理解していくとともに、学習や福祉活動の主体となっていく子ども・青年の主体形成への視点について学ぶようにします。また後半部では、子ども・青年の生活と「学び」の基盤となる地域社会の教育環境づくりの実際を学びながら、子ども福祉のあり方と社会教育の課題について考えます。

### 達成目標

世界に広がる子ども・青年の貧困・格差を中心とする現代の社会問題の解決に向かう社会教育の可能性について学びながら、1)社会教育の基本的知識を習得すること、2)現代社会への問題関心を深めること、3)子ども福祉の実現に向けた社会教育的アプローチを理解することを到達目標にします。

### スケジュール

- 第1回 インタロダクション：授業の進め方、履修上の要点、成績の評価
- 第2回 福祉と社会教育の歴史：貧困問題、社会事業、教育的救済
- 第3回 地域福祉と社会教育の連携：安全安心社会、公民館、地域づくり
- 第4回 社会教育における子ども理解：遊び、発達保障、生活習慣
- 第5回 子どもの権利条約と社会教育：意見表明権、文化権、社会参加
- 第6回 子ども・子育て政策と社会教育：少子高齢化、育児不安、共同の子育て
- 第7回 子どもと障害者の貧困と社会教育：育：グローバル化、社会的排除、ネットワーク
- 第8回 子どもの人権保障：虐待・いじめ、権利擁護、オンブスパーソン
- 第9回 子どもの居場所づくり：仲間関係、たまり場、ユースワーク、子ども食堂
- 第10回 子ども文化と社会教育：子ども図書館、子ども博物館、子ども大学
- 第11回 地域の子どもの遊び・スポーツ集団：スポーツ少年団、プレイパーク、子ども自治
- 第12回 子どもの社会化と地域活動：奉仕活動、ボランティア、子どもNPO
- 第13回 世代間交流と地域社会・学校：地域の教育力、地域教育組織、開かれた学校づくり
- 第14回 子どもの育ちと地域支援事業：学童保育、児童館、放課後事業、学習教室
- 第15回 子ども福祉と社会教育の課題：子ども大人関係、循環型社会、連携事業

### 教科書・参考文献

教科書 辻浩『現代教育福祉論』（ミネルヴァ書房、2017年）

参考書 社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』（エイデル研究所、2017年）

### 授業外での学習

毎回授業内容に関わる課題をもうけるのでこれに取り組むこと。

### 評価方法

平常点（課題の取り組み状況60%、授業への参加姿勢40%）により成績評価を行います。

### 履修上の注意

授業内容の理解を確認しながら授業を進めていきますが、日頃より地域で営まれている社会教育・学習に関心を持って過ごし、授業では積極的な参加を期待します。授業の際、グループになって課題に取り組むことがあります。

科目名 社会教育活動  
Title Social Educational Activities  
科目区分 地域づくり発展科目

担当教員  
非常勤講師 丹間 康仁 ( タンマ ヤスヒト )

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 2	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------------	----------	------------

### 目的

社会教育と生涯学習に関する基礎的な理解に基づき、地域で展開されている社会教育活動の実例について理解する。さらに、地域づくりにつながる社会教育活動の意義や、学校と地域の関係構築のなかで生まれる社会教育活動の可能性について具体的な取り組みを学ぶ。社会教育の学びを捉える教育学の枠組みから、市民どうしの学び合いや市民と社会教育との出会いのプロセスに注目して、市民の人生を豊かにする学びとそれを支える熟議と協働、市民の学び合いに寄り添うファシリテーションの視点について理解する。

### 達成目標

社会教育と生涯学習の基礎を踏まえて、市民の学びに基づく地域課題解決の活動や地域学校協働活動に関する専門的な知識と技能を身に付ける。その際、学校教育や地域振興への視野を持ちながら実践的な知見を広げて、社会教育活動を生み出す事業や施策の企画・立案方法を理解する。あわせて、市民の学びを促すファシリテーションの資質と社会教育活動の成果を発信するプレゼンテーション能力を培う。

### スケジュール

- 第1回 ガイダンス、授業のねらい、進め方、社会教育に関する基礎事項
- 第2回 生涯学習社会における社会教育の役割 社会教育の意義と特質
- 第3回 社会教育の内容と方法・形態 社会教育行政による社会教育活動の環境醸成
- 第4回 社会教育活動が円滑かつ効果的に実施されるための方法 参加型学習①
- 第5回 社会教育活動が円滑かつ効果的に実施されるための方法 参加型学習②
- 第6回 社会教育活動が円滑かつ効果的に実施されるための方法 参加型学習③
- 第7回 社会教育活動の企画・立案 地域住民の状況把握、社会教育関係団体への支援
- 第8回 社会教育活動の企画・立案 地域住民の参画による学習プログラムの作成
- 第9回 社会教育活動の企画・立案 地域課題解決型学習による社会教育活動の活性化
- 第10回 地域住民・社会教育関係団体の参画を促す取組の企画・立案①
- 第11回 地域住民・社会教育関係団体の参画を促す取組の企画・立案②
- 第12回 地域住民・社会教育関係団体の参画を促す取組の企画・立案③
- 第13回 社会教育活動支援を実現するためのプレゼンテーション①
- 第14回 社会教育活動支援を実現するためのプレゼンテーション②
- 第15回 全体のふりかえり

### 教科書・参考文献

教科書 使用しない。その都度配布する。

参考書 『生涯学習概論ハンドブック』（ぎょうせい）

### 授業外での学習

地域コミュニティ活動に関する調査や、自治体のマスタープランからの情報収集を行う。

### 評価方法

試験（40%）、受講態度・意欲（60%）

### 履修上の注意

グループ協議や演習を交えた授業となるため主体的で意欲的な受講を希望する。

科目名 社会教育活動  
Title Social Educational Activities  
科目区分 地域づくり発展科目

担当教員  
非常勤講師 丹間 康仁 ( タンマ ヤスヒト )

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
2		2	前期

## 目的

社会教育と生涯学習に関する基礎的な理解に基づき、地域で展開されている社会教育活動の実例について理解する。さらに、地域づくりにつながる社会教育活動の意義や、学校と地域の関係構築のなかで生まれる社会教育活動の可能性について具体的な取り組みを学ぶ。社会教育の学びを捉える教育学の枠組みから、市民どうしの学び合いや市民と社会教育との出会いのプロセスに注目して、市民の人生を豊かにする学びとそれを支える熟議と協働、市民の学び合いに寄り添うファシリテーションの視点について理解する。

## 達成目標

社会教育と生涯学習の基礎を踏まえて、市民の学びに基づく地域課題解決の活動や地域学校協働活動に関する専門的な知識と技能を身に付ける。その際、学校教育や地域振興への視野を持ちながら実践的な知見を広げて、社会教育活動を生み出す事業や施策の企画・立案方法を理解する。あわせて、市民の学びを促すファシリテーションの資質と社会教育活動の成果を発信するプレゼンテーション能力を培う。

## スケジュール

- 第1回 ガイダンス、授業のねらい、進め方、社会教育に関する基礎事項
- 第2回 生涯学習社会における社会教育の役割 社会教育の意義と特質
- 第3回 社会教育の内容と方法・形態 社会教育行政による社会教育活動の環境醸成
- 第4回 社会教育活動が円滑かつ効果的に実施されるための方法 参加型学習①
- 第5回 社会教育活動が円滑かつ効果的に実施されるための方法 参加型学習②
- 第6回 社会教育活動が円滑かつ効果的に実施されるための方法 参加型学習③
- 第7回 社会教育活動の企画・立案 地域住民の状況把握、社会教育関係団体への支援
- 第8回 社会教育活動の企画・立案 地域住民の参画による学習プログラムの作成
- 第9回 社会教育活動の企画・立案 地域課題解決型学習による社会教育活動の活性化
- 第10回 地域住民・社会教育関係団体の参画を促す取組の企画・立案①
- 第11回 地域住民・社会教育関係団体の参画を促す取組の企画・立案②
- 第12回 地域住民・社会教育関係団体の参画を促す取組の企画・立案③
- 第13回 社会教育活動支援を実現するためのプレゼンテーション①
- 第14回 社会教育活動支援を実現するためのプレゼンテーション②
- 第15回 全体のふりかえり

## 教科書・参考文献

教科書 使用しない。その都度配布する。

参考書 『生涯学習概論ハンドブック』（ぎょうせい）

## 授業外での学習

地域コミュニティ活動に関する調査や、自治体のマスタープランからの情報収集を行う。

## 評価方法

試験（40%）、受講態度・意欲（60%）

## 履修上の注意

グループ協議や演習を交えた授業となるため主体的で意欲的な受講を希望する。

科目名 公施設経営論  
Title Management of Public Institutions  
科目区分 地域づくり発展科目

担当教員  
非常勤講師 石津 峰 (イシツ タカネ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 2	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------------	----------	------------

## 目的

国立社会教育実践研究センター職員が、現役の社会教育主事等を対象に実施している研修会の学習プログラムを基に、自治体における「社会教育計画」のリメイクを題材とした演習を提供します。演習を通して、①学習者の多様な特性に応じて学習支援を行うことで地域社会への参画意欲を喚起することや、②多様な主体と連携・協働を図りながら学習者の学習成果を地域課題解決やまちづくり・地域学校協働活動等に導くことなど、社会教育行政の中核を担う社会教育主事として身に付けたい資質・能力の向上を図ります。

## 達成目標

教育的課題の解決に資する社会教育計画の改定版を作成し、仮想社会教育委員の会議における事務局案のプレゼンテーション演習を行うことを通じて、社会教育主事の職務に対する総合的な理解を深めていただきます。

## スケジュール

- 第1回 ガイダンス ( 講義内容や目的の共有 ) 及び社会教育行政の任務
- 第2回 社会教育行政における社会教育主事の役割
- 第3回 社会教育行政における社会教育計画の位置付け
- 第4回 現行計画 ( 総合計画・教育大綱・社会教育計画 ) の分析 ~ 対象自治体の概要の把握
- 第5回 現行計画 ( 総合計画・教育大綱・社会教育計画 ) の分析 ~ 現行施策及び事業の把握
- 第6回 現行計画 ( 総合計画・教育大綱・社会教育計画 ) の分析 ~ 新たな計画体系の構想
- 第7回 計画体系 ( 施策 ) の作成 ~ 施策の柱検討
- 第8回 計画体系 ( 事業 ) の作成 ~ 事業計画の検討①
- 第9回 計画体系 ( 事業 ) の作成 ~ 事業計画の検討②
- 第10回 評価体系 ( 事業 ) の作成 ~ 事業評価指標の検討①
- 第11回 評価体系 ( 事業 ) の作成 ~ 事業評価指標の検討②
- 第12回 評価体系 ( 施策 ) の作成 ~ 施策評価の検討
- 第13回 仮想社会教育委員の会議における仮想プレゼンテーション①
- 第14回 仮想社会教育委員の会議における仮想プレゼンテーション②
- 第15回 総括講義

## 教科書・参考文献

教科書 使用しません。その都度、必要な資料を配付します。

参考書 社会教育計画策定ハンドブック ( 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター )

## 授業外での学習

講義で指定する自治体の生涯学習・社会教育行政における事業等の実態を把握するため、社会教育施設で配布している資料や教育委員会HPなどで公開している情報等を収集しておいてください。

## 評価方法

- 演習における成果物及びプレゼンテーションの内容による評価 ( 55% )
- 受講態度・意欲による評価 ( 45% )

## 履修上の注意

- 受講に当たっては、「社会教育論 ( (旧) 地方分権と社会教育 ) 」を履修していることが望ましい。

科目名 社会教育演習  
Title Social Education Seminar  
科目区分 地域づくり発展科目

担当教員  
非常勤講師 石津 峰 (イシツ タカネ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 2	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------------	----------	------------

## 目的

国立社会教育実践研究センター職員が、現役の社会教育主事等を対象に実施している研修会の学習プログラムを基に、自治体における「社会教育計画」のリメイクを題材とした演習を提供します。演習を通して、①学習者の多様な特性に応じて学習支援を行うことで地域社会への参画意欲を喚起することや、②多様な主体と連携・協働を図りながら学習者の学習成果を地域課題解決やまちづくり・地域学校協働活動等に導くことなど、社会教育行政の中核を担う社会教育主事として身に付けたい資質・能力の向上を図ります。

## 達成目標

教育的課題の解決に資する社会教育計画の改定版を作成し、仮想社会教育委員の会議における事務局案のプレゼンテーション演習を行うことを通じて、社会教育主事の職務に対する総合的な理解を深めていただきます。

## スケジュール

- 第1回 ガイダンス(講義内容や目的の共有)及び社会教育行政の任務
- 第2回 社会教育行政における社会教育主事の役割
- 第3回 社会教育行政における社会教育計画の位置付け
- 第4回 現行計画(総合計画・教育大綱・社会教育計画)の分析～対象自治体の概要の把握
- 第5回 現行計画(総合計画・教育大綱・社会教育計画)の分析～現行施策及び事業の把握
- 第6回 現行計画(総合計画・教育大綱・社会教育計画)の分析～新たな計画体系の構想
- 第7回 計画体系(施策)の作成～施策の柱検討
- 第8回 計画体系(事業)の作成～事業計画の検討①
- 第9回 計画体系(事業)の作成～事業計画の検討②
- 第10回 評価体系(事業)の作成～事業評価指標の検討①
- 第11回 評価体系(事業)の作成～事業評価指標の検討②
- 第12回 評価体系(施策)の作成～施策評価の検討
- 第13回 仮想社会教育委員の会議における仮想プレゼンテーション①
- 第14回 仮想社会教育委員の会議における仮想プレゼンテーション②
- 第15回 総括講義

## 教科書・参考文献

教科書 使用しません。その都度、必要な資料を配付します。

参考書 社会教育計画策定ハンドブック(国立教育政策研究所社会教育実践研究センター)

## 授業外での学習

講義で指定する自治体の生涯学習・社会教育行政における事業等の実態を把握するため、社会教育施設で配布している資料や教育委員会HPなどで公開している情報等を収集しておいてください。

## 評価方法

- 演習における成果物及びプレゼンテーションの内容による評価(55%)
- 受講態度・意欲による評価(45%)

## 履修上の注意

- 受講に当たっては、「社会教育論(旧)地方分権と社会教育」を履修していることが望ましい。

科目名 現代経済学  
Title Theoretical Economics  
科目区分 地域づくり発展科目

担当教員  
非常勤講師 矢島 猶雅 ( ヤジマ ナオナリ )

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
2	選択	2	前期

## 目的

本講義では、現代経済学の基本である「ミクロ経済学」、「ゲーム理論」、「マクロ経済学」を学び、経済学的な思考方法について習得することを目的とします。講義の前半では、ミクロ経済学（個人・家計と企業の行動）について学び、競争市場の効率性と、その市場が機能しないケースについて理解します。講義の中盤では、ゲーム理論（人と人の選択が相互に影響しあう状況における意思決定）を学び、「囚人のジレンマ」などの例を通して合理的な選択とその結果についての理解を深めます。講義の後半では、マクロ経済学（一国全体の経済活動）について学び、景気の決まり方および日本経済の現状と財政・金融政策などについての考え方を習得します。

## 達成目標

本講義を受講することで、受講生が新聞やテレビなどで報じられている様々な経済・社会問題を、経済学の視点をもって分析できるようになることを到達目標とします。

## スケジュール

第1回	ガイダンス
第2回	ミクロ経済学、マクロ経済学の基礎
第3回	ミクロ経済学 ( 1 ) : 企業と家計
第4回	ミクロ経済学 ( 2 ) : 供給と需要
第5回	ミクロ経済学 ( 3 ) : 完全競争市場
第6回	ミクロ経済学 ( 4 ) : 不完全競争市場
第7回	ミクロ経済学 ( 5 ) : 市場と情報
第8回	ミクロ経済学 ( 6 ) : 外部性, 公共財, 政府の役割
第9回	ゲーム理論 ( 1 ) : 純粋戦略と支配戦略
第10回	ゲーム理論 ( 2 ) : 最適反応戦略, 支配戦略, ナッシュ均衡 ( 1 )
第11回	ゲーム理論 ( 3 ) : 最適反応戦略, 支配戦略, ナッシュ均衡 ( 2 )
第12回	マクロ経済学 ( 1 ) : 財市場の均衡, マネーサプライ
第13回	マクロ経済学 ( 2 ) : IS-LM曲線 ( 1 )
第14回	マクロ経済学 ( 3 ) : IS-LM曲線 ( 2 )
第15回	まとめ

## 教科書・参考文献

教科書 金子昭彦・田中久稔・若田部昌澄 ( 2015 ) 『経済学入門 ( 第3版 ) 』東洋経済新報社

参考書 講義の各テーマに応じて、適宜講義中に紹介。

## 授業外での学習

毎回、講義前までに 1) 教科書の指定箇所と 2) 講義資料 によく目を通し予習した上で、講義に参加すること。また、必要に応じて課題を出す場合があります。

## 評価方法

小テスト ; 40%、 期末試験 ; 60%

## 履修上の注意

新型コロナウイルス感染症の感染拡大など・状況に応じて、評価方法等は適宜変更します。その際は、講義中に告知しますので、なるべく講義には出席の上、連絡事項に注意して下さい。また、講義初回にて本講義の方針などを説明しますので、必ずご参加下さい。

科目名 社会心理学  
Title Social Psychology  
科目区分 地域づくり発展科目

担当教員  
准教授 田戸岡 好香 ( タドオカ ヨシカ )

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
2	選択	2	後期

## 目的

人の行動は、私たちが考えている以上に周囲の影響を受けながら決定されている。心理学の研究分野の中でも特に人の行動に影響を及ぼす要因に着目したのが社会心理学である。この授業では、地域や社会の問題を考え、解決していく際に、人の心の働きがどのように関わっているかを考察していく。  
授業の前半では、社会行動の基本となる個人内過程に焦点をあてる。  
後半では、より広範な社会行動について、古典的な実験から最新の知見までを幅広く紹介していく。  
また、理解を促すため、映像を用いたり、授業時に簡単な心理学調査や実験を実施し、社会心理学を体験する時間を設ける。

## 達成目標

社会心理学の基本的な理論や知識を正しく有し、説明できるようになる。  
理論や概念を身近な現象の中で捉えることができる。  
政策策定や地域の問題、その解決方法を社会心理学の観点から考察することができる。

## スケジュール

- 第1回 インタロダクション：社会心理学とは
- 第2回 『自分』はどこからやってくるのか：自己概念の形成
- 第3回 自分をどのように見せるか：自己開示と自己呈示
- 第4回 どうやったら目標に向かって進めるか①：自己コントロールの失敗
- 第5回 どうやったら目標に向かって進めるか②：自己コントロールの成功
- 第6回 ネガティブな気持ちを力に変える①：妬みと悲観主義
- 第7回 ネガティブな気持ちを力に変える②：ストレス
- 第8回 第一印象はどう決まるのか：対人認知
- 第9回 自分の考えをどのように伝えるか：説得・コミュニケーション
- 第10回 映像で見る社会心理学
- 第11回 集団の中の個人：同調と服従
- 第12回 人はどうして傷つけあうのか：攻撃と援助
- 第13回 仲間はなぜなくなったとき：受容と排斥
- 第14回 集合現象の不思議：流言・マスメディア
- 第15回 私たちは共生社会をつくれるのか：偏見低減の心理学

## 教科書・参考文献

教科書 教科書の指定はなく、毎回プリントを配布する。  
参考書は以下の通りだが、これ以外にも授業時に随時紹介する。

- 参考書
- ・池田謙一 他(編)(2010).『社会心理学』 有斐閣
  - ・池上知子・遠藤由美(著)(2009).『グラフィック社会心理学』 サイエンス社

## 授業外での学習

次回の授業資料に事前に目を通し、予習しておくこと。日ごろの自分の行動に対し、学んだ視点から考察すること。  
授業内で紹介した参考書を積極的に読むなど、各自興味を深めて欲しい。

## 評価方法

定期試験(70%)、および授業時に出す課題や調査の参加状況などの平常点(30%)の得点をもとに総合評価を行う。

## 履修上の注意

『心理学』などの関連科目を履修することが望ましい。  
心理学は、調査や実験を通してこころの働きを探究する科学であるため、調査法や統計学の授業なども積極的に履修して欲しい。